

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	国語	年次	3	コース	全コース
科目名	論理国語	履修区分	必修	単位数	3
教科書(出版社)	「新編論理国語」(東京書籍)				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
	(1) 読む能力・書く能力 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色を読み取ったり、要約したりすることができる。 ・論理的な文章や記録的な文章の他、随筆など情緒的な文章を書くことができる。 ・文章の段落構成を的確にとらえ、筆者の主張をつかむことができる。	(2) 話す・聞く能力 ・自分の考えを持ち、目的や場に応じた効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。	(3) 関心・意欲・態度 ・国語を適切に表現し的確に理解しようとする。 ・伝統的な言語文化の特質などを理解しようとする。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。				
	(1) 知識および技能 ・実社会に必要な国語の知識や語彙力、場面に応じた言葉遣いなどの技能を身に付けるようにする。	(2) 思考力、判断力・表現力等 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。	(3) 学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値への認識を高めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 資料やタブレット等を活用して、分からないことを調べながら授業を進めていきます。
- (2) 「読むこと」「聞くこと」「自分の考えを適切に表現すること」文字を丁寧に「書くこと」常に意識しましょう。
- (3) 評価は定期考査や課題提出物、主体的な授業への取り組みを総合的に判断します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・文法を理解し、テキストの内容を正確に理解することができる。 ・場面や相手によって言葉の使い方が変わることを理解することができる。 ・文章の要旨をまとめ、分掌の要点を把握することができる。	・自分の考えが適切に伝わるように効果的に話すことができる。 ・表現の違いから動作の主体を思考し判断することができる。 ・テキストの内容を理解し分かりやすくまとめることができる。	・学習活動に対して主体的に取り組もうとしている。 ・自分の考えや意見を積極的に発信することができる
評価資料	・定期考査 ・ノート ・課題プリント ・活動状況の観察。	・定期考査 ・ノート ・課題プリントの内容 ・活動状況の観察	・活動状況の観察 ・授業への積極的な参加 ・ノート・課題の提出状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	1 6	ガイドンス 弱肉強食は自然の摂理か 山田俊宏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方や評価基準について理解する。</li> <li>・筆者の問題提起と主張を把握し、構成を理解する。</li> <li>・「統一的な強さの尺度」とは何か読み取る。</li> <li>・この文章の中心的な「問い」と「主張」をまとめる。</li> </ul>	○ ○	○ ○	○ ○
5	6 6	カフェの開店準備 小池昌代 思考の肺活量 鷲田清一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を通読し、具体例を挙げている部分を指摘する。</li> <li>・「行為の習慣化」についての筆者の考えを読み取る。</li> <li>・「痕跡の残らない行為」に対する筆者の考えを理解する。</li> <li>・「思考」のために必要な「肺活量」とは何か理解する。</li> <li>・3つの例示について理解する。</li> </ul>	○ ○	○ ○	○ ○
6	2 6	前記中間検査・解説 豊かさと生物多様性 本川達雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考」において「だいじなこと」は何か理解する。</li> <li>・生物多様性を大切にしようといううえで必要な発想を読み取る</li> <li>・課題としてなっている「南北問題」の内容をまとめる</li> </ul>	○ ○	○ ○	○ ○
7	6	鑑としてのアンドロイド 石黒 浩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代という時代に価値のあるものを考え、まとめる。</li> <li>・「技術開発」にもたらす「新たな意味」を読み取る。</li> <li>・「他人は、自分を映しだす鏡」とは何か読み取る。</li> <li>・作者の「何かを作りだす」ことへの考えを読み取る。</li> </ul>	○	○	○
8	6	言葉は「ものの名前」 ではない 内田 樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉と「もの」の関係に注意しながら本文を読む。</li> <li>・「ギリシャ以来の伝統的な言語観」を理解する。</li> <li>・本文で筆者が反対する考えをまとめる。</li> </ul>	○	○	○
9	2 9	前期期末検査・解説 もう一つの知性 姜尚中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知の在り方」に注意しながら本文を通読する。</li> <li>・「プリコラージュ」的な知とは何か読み取る。</li> </ul>	○ ○	○ ○	○ ○
10	9	本物のオカネの作り方 岩井克人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを読み取り、自分はどうか考える。</li> <li>・貨幣や経済について互いの知識を話し合う。</li> <li>・「ホンモノの代わり」が本物になる過程を理解する。</li> <li>・文章の構成・展開の巧みさを確認する。</li> </ul>	○	○	○
11	2 9	後期中間検査・解説 科学的「発見」とは 小川眞里子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図を見て何に見えるかを考えながら本文を通読する。</li> <li>・「見ることは解釈することだ」の意味を理解する。</li> </ul>	○	○	○
12	9	未来のありか 若林幹夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の中心的な「問い」と「主張」をまとめる。</li> <li>・「未来の事物」「未来の時間」について考える。</li> <li>・「未来らしさを支えるもの」を箇条書きにまとめる。</li> </ul>	○	○	○
1	2	後期期末検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来のありか」についての筆者の考えをまとめる。</li> </ul>	○	○	

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	国語	年次	3	コース	全コース
科目名	古典探究	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	「新編古典探究」(東京書籍)				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
	(1) 読む能力・書く能力 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色を読み取ったり、要約したりすることができる。 ・論理的な文章や記録的な文章の他、随筆など情緒的な文章を書くことができる。 ・文章の段落構成を的確にとらえ、筆者の主張をつかむことができる。	(2) 話す・聞く能力 ・自分の考えを持ち、目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。	(3) 関心・意欲・態度 ・国語を適切に表現し的確に理解しようとする。 ・伝統的な言語文化の特質などを理解しようとする。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。				
	(1) 知識および技能 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 思考力、判断力・表現力等 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	(3) 学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 資料やタブレット等を活用して、古典文法や漢文訓読のルールおよび、作品に描かれた当時の時代背景や登場人物の心情を理解しましょう。
- (2) 「読むこと」「聞くこと」「自分の考えを適切に表現すること」「伝統的な言語文化を理解すること」がバランスよく伸ばせるような活動を目指します。
- (3) 評価は定期考査や課題提出物、主体的な授業への取り組みを総合的に判断します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・文法を理解し、テキストの内容を正確に理解することができる。 ・場面や相手によって言葉の使い方が変わることを理解することができる。 ・文章の要旨をまとめ、分掌の要点を把握することができる。	・自分の考えが適切に伝わるように効果的に話すことができる。 ・表現の違いから動作の主体を思考し判断することができる。 ・テキストの内容を理解し分かりやすくまとめることができる。	・我が国の伝統的な言語文化に対して主体的に取り組もうとしている。 ・自分の考えや意見を積極的に発信することができる
評価資料	・定期考査 ・ノート ・課題プリント ・活動状況の観察。	・定期考査 ・ノート ・課題プリントの内容 ・活動状況の観察	・活動状況の観察 ・授業への積極的な参加 ・ノート・課題の提出状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	7	ガイダンス 伊勢物語「初冠」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方や評価基準について理解する。</li> <li>・本文を現代語訳し、内容を読み取る。</li> <li>・2つの歌を比較し、表現の工夫をまとめる。</li> <li>・歌物語や伊勢物語の特徴を理解し、主題を考える</li> </ul>	○	○	○
5	6	世説新語「断腸」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を正しく音読し、脚注を参考に現代語訳する。</li> <li>・桓公が猿の子を得た者を罷免した理由を考える。</li> <li>・「断腸」という故事成語の意味や使い方を確認する。</li> </ul>	○	○	○
6	2 6	前記中間考査・解説 大鏡「三船の才」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道長と公任の当時の関係を理解する。</li> <li>・和歌を解釈し修辞等からこの歌の特徴を挙げる。</li> <li>・公任の心情を読み取り人物像を考える。</li> </ul>	○	○	○
7 8	7	十八史略「水魚之交」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読し、句法に注意しながら現代語訳する。</li> <li>・諸葛亮の人物像や「天下三分の計」を理解する。</li> <li>・諸葛亮の献策を劉備はどう評価したのか考える。</li> </ul>	○	○	○
9	2 9	前期期末考査・解説 源氏物語「光源氏の誕生」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通読し、現代語訳をする。</li> <li>・敬語表現について理解を深める。</li> <li>・物語世界がどのような状況であるかを理解する。</li> </ul>	○	○	○
10	4	唐詩「静夜詩」 「送元二使安西」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢詩の形式や決まりを理解する。</li> <li>・それぞれの作者や詩の内容を理解する。</li> <li>・唐詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。</li> </ul>	○	○	○
11	2 4	後期中間考査 百人一首大会準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内百人一首大会に向けて、ルールの確認や札をとる技術を身に付ける。</li> </ul>	○		○
12		近世俳句抄 「芭蕉、蕪村、一茶」 日本外史「所争不在米塩」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説文を基に句意を把握し、優れた句を味わう。</li> <li>・各句に詠まれた情景や心情について考える。</li> <li>・漢文で描かれた日本の歴史上の出来事を鑑賞する。</li> </ul>	○	○	○
1	1	後期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦国武将の美意識について考える。</li> </ul>	○	○	

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	理数	年次	2	コース	共通
科目名	理数探究基礎	履修区分	必修	単位数	2
教科書（出版社）	「理数探究基礎 未来に向かって」（啓林館）				
副教材（出版社）					
教科の目標	様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。	(2) 多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。	(3) 様々な事象や課題に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。		
科目の目標	様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 探究するために必要な基本的な知識及び技能を身に付けるようにする。	(2) 多角的、複合的に事象を捉え、課題を解決するための基本的な力を養う。	(3) 様々な事象や課題に知的な好奇心をもって向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 実験・観察 各単元において適宜、実験・観察を行います。操作に対する説明を理解し、安全に実習に取り組みましょう。また、目的意識を持って実験・観察に取り組み、科学的に探求することの基礎を学びましょう。
(2) 身につけるべき知識とその活用 物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する力を身につける。学習した知識を基に、化学と日常生活や社会との関わりを考えることができるように努める。
(3) 家庭学習 授業の予習・復習を行い、学習内容を定着できるように努めましょう。調べ学習やレポート、授業プリントを用いた学習に繰り返し取り組みましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	・地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の提出状況 ・確認テスト等の点数 ・振り返りシート等
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満) の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	第1節 探究へのいざない 探究とは 探究の流れ	これから取り組む探究活動の意義について話し合う。 科学的に探究するとはどのようなことか、話し合う。身の回りから、疑問に思うことを見つけて発表する。	○	○	○
5	6	探究①	数学、物理、化学、生物、地学などの簡単な実験を行い、データを集める。 対照群と実験群の差について統計分析して判断し、レポートにまとめる。	○	○	○

6	6	第2節 課題の設定 探究の準備 課題の設定	ブレインストーミングやマインドマップなどの思考ツールを利用し、興味のある分野の疑問・課題を見つける。		○	○
7	6	第3節 課題の探究 仮説の設定 文献を調べる	自分たちが見つけた疑問について、仮説を立て、実験計画を立てる。グループで互いの仮説について反証可能か確認する。仮説の修正をする。	○	○	○
8	4	探究の計画 探究を記録する	仮説について先行研究を調べる。また、調べた先行研究について、記録の仕方を学ぶ。 探究①のレポートを振り返り、修正する。	○		○
9	6	探究② 実験計画、実験 レポートの作成	班で1つのテーマを決めて実験の準備をする。 安全に留意しながら実験を行う。 実験結果をレポートにまとめ、発表の準備をする。	○	○	○
10	8	レポートの作成 発表・評価	発表し、相互評価と振り返りをする	○	○	○
11	8	第3節 課題の探究 結果の処理 探究③ 準備・実験  レポートの作成 発表・相互評価	メモリの読みや有効数値と誤差。計算方法について学ぶ。コンピュータを利用しながら、データ入力、統計処理、グラフの作成などについて学ぶ。 表やグラフのメモリやエラーバーの意味について学ぶ。 示された具体例を見ながら、判断の仕方について学ぶ。 仮説を反証するための研究計画を立てる。実験の準備をする。安全に留意して実験を行う。データを記録する。 レポートにまとめる。	○		○
12	6	第4節 発表と報告書の作成 発表することの意義と方法 研究発表 報告書の作成	探究③のレポートの文章をお互いに添削し、表現などについて確認する。 探究③のレポートを修正し、完成させる 口頭発表の仕方と発表時間、伝え方などについて話し合う。	○	○	○
1	6	探究 ポスター・スライドの作成 発表・評価 第5節 探究に取り組む姿勢 私たちの共有財産としての研究成果 探究を意義あるものとするために 探究を行うにあたって守るべき研究倫理	探究で取り組んだ内容をポスターやスライドにまとめる。 発表と質疑応答をする。相互評価し、その評価を発表者へ伝える。班ごとに、取り組みを振り返る  研究者に求められる倫理観について意見を交換する  1年間のまとめ	○	○	○
				○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育	年次	3	コース	共通
科目名	体育	履修区分	必修	単位数	3
教科書（出版社）	「現代高等保健体育 保体701」（大修館）				
副教材（出版社）	「現代高等保健体育ノート」（大修館）				
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。				
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 男女別及び共習の形式で実施する。その際、体力や運動技能の差を鑑みて、多角的な評価をする。
- (2) 互いの違いを受け入れて、協働的・積極的に取り組むこと。
- (3) ルールやマナーを大切にすること。
- (4) 健康・安全に留意して活動すること。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項について理解している。</li> <li>・各種運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。</li> <li>・各技能の名称や実践の仕方を理解している。</li> <li>・ルールを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決をしようとしている。</li> <li>・自己や仲間の課題に応じた取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、考えたことを他者に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業にふさわしい身だしなみをしている。</li> <li>・健康・安全に留意して活動している。</li> <li>・運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>・公正に取り組み、互いに協力している（準備・後片付け含む）。</li> <li>・互いの良さや一人一人の違いを大切にしようとしている。</li> </ul>
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況の観察</li> <li>・単元テスト等の記述内容</li> <li>・技能テスト等の点数</li> <li>・種目の特性の理解</li> <li>・ルールやマナーの理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況の観察</li> <li>・単元テスト等の記述内容</li> <li>・技能テスト等の点数</li> <li>・合理的・計画的に取り組む姿勢</li> <li>・課題を把握し、工夫して取り組む姿勢</li> <li>・自己や仲間の考えたことを他者に伝える姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況の観察</li> <li>・単元テスト等の記述状況</li> <li>・ふさわしい服装</li> <li>・健康・安全を意識した取り組み方</li> <li>・自主的・計画的な取り組み方</li> <li>・仲間との関わりとその協力する態度</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする

評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を <u>1:1:1</u> で集約し、5 (80%以上)、4 (80%未満～60%)、3 (60%未満～40%)、2 (40%未満～30%)、1 (30%未満) の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。
---------------------	---

### 3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4 5	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・体育理論</li>   <li>・体づくり運動 (集団行動)</li>   <li>(体力テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画と授業の目標について確認する。</li> <li>・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、豊かなスポーツライフの設計の仕方について学ぶ。</li> <li>・体を動かす楽しさや心地よさを味わう。</li> <li>・仲間と積極的に交流する。</li> <li>・個々のねらいに応じ、健康に生活するために運動をおこなうための体力を身につける。</li> <li>・集団行動の行動様式を理解する。</li>   <li>・正しい測定の方法を学ぶ。</li> <li>・仲間と協力し、主体的に行動する。</li> <li>・道具を正しく使用し、安全にも留意する。</li> <li>・自己の体力を理解し、課題を発見する。</li> </ul>	○	○	○
5 6	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論・単元テスト</li> <li>・選択Ⅰ (男女共習)</li> <li style="padding-left: 20px;">○バレーボール</li> <li style="padding-left: 20px;">○サッカー</li> <li style="padding-left: 20px;">○テニス</li>   <li>・ダンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の定着度、理解度を深める。</li> <li>・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。</li> <li>・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。</li> <li>・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。</li> <li>・感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。</li> </ul>	○	○	○
7 8 9	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論・単元テスト</li> <li>・選択Ⅱ (男女共習)</li> <li style="padding-left: 20px;">○バレーボール</li> <li style="padding-left: 20px;">○サッカー</li> <li style="padding-left: 20px;">○テニス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の定着度、理解度を深める。</li> <li>・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。</li> <li>・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。</li> <li>・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。</li> </ul>	○	○	○
9 10	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論・単元テスト</li> <li>・選択Ⅲ (男女共習)</li> <li style="padding-left: 20px;">○バドミントン</li> <li style="padding-left: 20px;">○卓球</li> <li style="padding-left: 20px;">○ダブルダッチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の定着度、理解度を深める。</li> <li>・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。</li> <li>・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。</li> <li>・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。</li> </ul>	○	○	○
11 12	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論・単元テスト</li> <li>・選択Ⅳ (男女共習)</li> <li style="padding-left: 20px;">○バスケットボール</li> <li style="padding-left: 20px;">○卓球</li> <li style="padding-left: 20px;">○ミニバレー</li> </ul> <p>※選択Ⅲで卓球の場合は選択Ⅳでの卓球は不可</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の定着度、理解度を深める。</li> <li>・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。</li> <li>・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。</li> <li>・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。</li> </ul>	○	○	○
1	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションスポーツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と協力して企画・運営を行い、安全に留意しながら取り組む。</li> </ul>	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	外国語	年次	3年	コース	
科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	履修区分	必修	単位数	3
教科書(出版社)	「All Aboard! English CommunicationⅢ」(東京書籍)				
副教材(出版社)	「Listening Pilot level 1」(東京書籍) 「コーパス 1800」(東京書籍)				
教科の目標	聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を結びつけた活動を通して、情報や考えを表現したり伝え合う資質と能力を育成する。				
	(1) 外国語の音や声などの理解を深め、文法と語彙の知識を正確に活用できるようにする。	(2) コミュニケーションの場面や状況に応じて、必要な情報を的確に伝えたり理解したりする力を養う。	(3) 外国語の背景や文化的な知識を主体的に活用し、自ら考え表現する態度を養う。		
科目の目標	5つの領域別に設定する目標の実現を目指して、その資質・能力を一体的に育成する。				
	(1) 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を結びつけた活動を通して、情報や考えを表現したり伝え合う資質と能力を育成する。	(2) コミュニケーションの場面や状況に応じて、必要な情報を的確に伝えたり理解したりする力を養う。	(3) 外国語の背景や文化的な知識を主体的に活用し、自ら考え表現する態度を養う。	(4) 話すこと(発話)の場面や状況に応じて、必要な情報を的確に伝えたり理解したりする力を養う。	(5) 書くこと(書写)の場面や状況に応じて、必要な情報を的確に伝えたり理解したりする力を養う。

1 学習の進め方と留意点

(1) 教室内を巡回してペアワーク、個人ワークの取り組み状況を観察する。
(2) 表現が身についているかをライティング、スピーキングの活動を通して評価する。
(3) パフォーマンステストを実施し、そのレッスンの理解度や、レッスンに基づいた応用力を評価する。
(4) 普段の授業の取り組みを重視し、その取り組む態度を評価に加える。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・文法の知識を理解している。 ・文法の知識を使って相手に伝える技能を身につけている。	・本文の内容に関して出てきた表現を活用しながら自分の考えをまとめ、相手の意見も聞くことができる。 ・自分の考えや感情を正確に相手に伝わるように書き、話すことができる。	・文章や対話の要点を捉えようとしている ・スピーキング、ライティング、リーディング等の活動を通して積極的にコミュニケーションをとろうとしている。
評価資料	・考査 ・小テスト	・ライティングシート ・ディクテーションシート ・リスニングテスト ・リーディングテスト	・日々の活動状況の記録 ・パフォーマンステスト
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を <u>4:3:3</u> で集約し、5(90%以上)、4(80%~90%未満)、3(50%~80%未満)、2(40%~50%未満)、1(40%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	Lesson1 Gifts to Barcelona	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ to 不定詞</li> <li>・ 動名詞</li> <li>・ 建築物について英語で表現する。</li> <li>・ Live Report</li> </ul>	○	○	○
5	5	Lesson2 Akkamui	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在完了形</li> <li>・ 生き物の特徴について、英語で説明する。</li> <li>・ Show and Tell</li> </ul>	○	○	○
6	6	Lesson3 Your True Colors	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使役動詞</li> <li>・ ファッションについて、英語で紹介する。</li> <li>・ Interview</li> </ul>	○	○	○
7	6	Lesson4 Our Future Food?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受け身</li> <li>・ 食糧問題について英語でミニデバートをする。</li> <li>・ Mini Debate 1</li> </ul>	○	○	○
8	6	Lesson5 Madagascar	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係代名詞</li> <li>・ 地域の自然について、英語でプレゼンテーションする。</li> <li>・ Presentation 1</li> </ul>	○	○	○
9	6	Lesson6 The Mystery of the Terracotta Warriors	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係代名詞の非制限用法</li> <li>・ 訪れてみたい史跡について、英語でまとまりのある文章を書く。</li> <li>・ Paragraph Writing 1</li> </ul>	○	○	○
10	6	Lesson7 Green Challenges	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較表現</li> <li>・ 再生可能エネルギーについて、国や地域を比較して英語でプレゼンテーションをする。</li> <li>・ Presentation 2</li> </ul>	○	○	○
11	6	Lesson8 Witnesses of War	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名詞を後ろから説明する分詞</li> <li>・ 経験したことや考えたことについて、英語でまとまりのある文章を書く。</li> <li>・ Paragraph Writing 2</li> </ul>	○	○	○
12	6	Lesson9 The Wonders of Lightning	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮定法過去</li> <li>・ 伝記の有効活用について、英語でミニデバートをする。</li> <li>・ Mini Debate 2</li> </ul>	○	○	○
1	6	Lesson10 Katherine's Long Journey	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係代名詞 whose</li> <li>・ 社会に影響を与えた人物について、英語でエッセイを書く。</li> <li>・ Essay Writing</li> </ul>	○	○	○
2	6	Reading 1 The Fun They Had	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去完了形</li> <li>・ 過去完了進行形</li> <li>・ 英語の物語を読み、ストーリーを捉える。</li> </ul>	○	○	○
3	6	Reading 2 Table for Two	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無生物主語</li> <li>・ 英語の物語を読み、ストーリーを捉える。</li> </ul>	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	家庭	年次	3	コース	共通
科目名	生活教養	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	なし				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。				
	(1)生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	(2)生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	(3)職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。		
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。				
	(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。	(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1)ノートを用意して下さい。適宜プリントを配布し授業を進めます。
- (2)板書以外にも自分自身で大事だと思うことはどんどんメモして下さい。たくさんの情報を得るために、早く字を書くこと、頭の中で内容をまとめながら書き記す訓練も必要です。
- (3)授業は皆さんが主役です。自分の意見をしっかり持ち、仲間の意見には耳を傾け、主体的に取り組みましょう。調理実習ではエプロン・三角巾を各自で用意します。集団調理は家庭調理以上の緊張を伴います。校内・校外の実習では安全と衛生に気をつけ、仲間と協力して気持ちよく行えるようにしましょう。校外での実習で
- (4)テレビや新聞などのニュースに関心を持つこと。他教科での学習や、様々な生活体験で身につけた知識や技術を使って授業を進めます。家庭科と関係のないできごとはありません。ニュースに関心を持ちましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	人の一生と産業、食生活、経済生活、環境などについて、生活を主体的に営むために必要な知識と技術を総合的に身に付けている。	人の一生と産業、食生活、経済生活、環境などについて、その充実向上を図るための課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	人の一生と産業、食生活、経済生活、環境などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容と工夫 ・定期考査の点数 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	1	オリエンテーション	○学習内容や学習方法・評価についての説明 ○SDGsの取り組みについての説明	○生活教養の学習活動を知る。 ○持続可能な社会を目指す視点を持つことの大切さを知る。 ○防災と共助に関する意識を高める。		○
	6	9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任	○現代の消費決定における意思決定の重要性と情報の活用 ○消費者の権利と責任  ○実生活の家計の収支	○責任ある消費行動がとれるよう、さまざまな契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解する。 ○消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、消費者市民社会の実現について考え、実践しようとする。 ○経済的自立の重要性や生涯を見通	○	○

		4 これからの経済生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リスク管理と生活設計</li> <li>○18歳成人時代の自立とは</li> <li>☆SDGsとの関連</li> <li>☆一般的なライフコースに関わる費用を試算</li> <li>☆金融商品に関する講話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>した働き方について理解する。</li> <li>○国際経済のつながりについて理解し、家計をマネジメントする力をつける。</li> <li>○生涯を見通した経済管理について、ライフステージや社会保障制度と関連付けて考察できる。</li> </ul>	○	○	○
5	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>8章 住生活をつくる</li> <li>1 住生活の変遷と住居の機能</li> <li>2 安全で快適な住生活の計画</li> <li>3 住生活の文化と知恵</li> <li>4 これからの住生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ライフステージに応じた住生活の特徴</li> <li>○安全や環境に配慮した住宅の機能</li> <li>○住居の計画・管理</li> <li>☆住宅広告から読み取れること</li> <li>☆SDGsとの関連</li> <li>☆岩橋英遠の大型絵巻を使って北海道の自然・四季の特徴を考える</li> <li>☆星野道夫展鑑賞</li> <li>☆古典から持続可能な住環境を考える。</li> <li>☆前期中間考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯を見通した住生活について考える、住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。</li> <li>○快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。</li> <li>○気候や風土、時代の変化によって異なるさまざまな住文化について理解する。</li> <li>○寒冷地における住宅政策について考える。</li> <li>○持続可能な住居や地域のコミュニティづくりについて理解する。</li> </ul>	○	○	○
6	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>6章 食生活をつくる</li> <li>1 食生活の課題について考える</li> <li>2 食事と栄養・食品</li> <li>3 食生活の選択と安全</li> <li>4 生活の健康を見通した食事計画</li> <li>5 調理の基礎</li> <li>6 食生活の文化と知恵</li> <li>7 これからの食生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食生活の課題や食事の意義、食環境の変化</li> <li>○栄養素の種類と機能、食品の栄養的特質や調理性</li> <li>○食品衛生</li> <li>○バランスの良い食事とそれを実現する方法</li> <li>○持続可能な食生活とは</li> <li>○食生活産業の課題</li> <li>☆農場実習</li> <li>☆古典の登場人物の健康状態を推察する。</li> <li>☆SDGsとの関連</li> <li>☆調理実習 (2時間×3回)</li> <li>☆前期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食生活の自立に必要な知識と技術を身につける。</li> <li>○世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。</li> <li>○食生活および食生活産業の問題点を見出し、課題を解決しようとする力を身に付けている。</li> <li>○自身の実践について論理的に表現することができる。</li> <li>○食生活に関わる情報を適切に判断する力を身につける。</li> <li>○様々な人と協働できる。</li> <li>○安全と衛生を理解し実践できる。</li> </ul>	○	○	○
7	5				○	○	○
8	3				○	○	○
9	7				○	○	○
10	14	マナーとエチケット	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーブルマナー</li> <li>○フォーマルマナー</li> <li>○情報伝達とマナー</li> <li>○国際社会とマナー</li> <li>☆封書の書き方</li> <li>☆手紙の書き方</li> <li>☆SNSの使い方</li> <li>☆外出先でのマナー</li> <li>☆環境整備</li> <li>☆日本の伝統文化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまなシーンにおけるマナーを知り、身に付ける。</li> <li>○円滑な人間関係を築く手段としてマナーについて考えることができる。</li> <li>○日本の文化・年中行事の意味を理解する。</li> <li>○文化を尊重・継承する大切さを理解する。</li> <li>○日常での望ましい立ち振る舞いについて考える。</li> </ul>	○	○	○
11					○	○	○
12	10	共生社会と福祉生活をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的弱者を取り巻く社会の課題</li> <li>○自助、共助、互助の果たす役割</li> <li>○生活課題に対応する考察と意思決定の重要性</li> <li>☆防災食クッキング</li> <li>☆応急手当</li> <li>☆古典から人間の負の心を見いだす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</li> <li>○地域の防災対策を調べる。</li> <li>○防災意識を高めるとともに、災害時において必要な社会的支援について考え、工夫することができる。</li> <li>○古来から現代に至るまで共通する人間の感性を知り、民主的・福祉的な社会を実現するための方法を考える。</li> </ul>	○	○	○
1	(2)				○	○	○
(3)					○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	理科	年次	3	コース	共通
科目名	物理基礎	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	「高等学校 物理基礎」（啓林館）				
副教材（出版社）	「ゼミナール物理基礎」（浜島書店）				
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				
	(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
科目の目標	日常生活との関係を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 実験・観察… 各単元において適宜、実験・観察を行います。操作に対する説明を理解し、安全に実習に取り組みましょう。また、目的意識を持って実験・観察に取り組み、科学的に探究することの基礎を学びましょう。
- (2) 身につけるべき知識とその活用… 物体の運動と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する力を身につける。学習した知識を基に、物理学と日常生活や社会との関わりを考えることができるように努める。
- (3) 家庭学習… 授業の復習を行い、学習内容を定着できるように努めましょう。ワークブックや教科書の問題、授業プリントを用いた学習に繰り返し取り組みましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、化学に関する知識を総合的に身に付けている。</li> <li>自然の事物・現象に関する観察、実験を行い、実験器具を正しく取り扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、様々な事象を科学的に探究する技術を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象の中に課題を見だし、解決を目指して思考を深め、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</li> <li>自然の事物・現象について、物理学に関する知識を基に、説明する力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、物体の運動や様々なエネルギーについて考えようとする態度を身に付けている。</li> <li>命題について科学的な根拠を持って答える力や科学的な視点を持ち考える力を養う。</li> </ul>
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>各種課題等の記述内容</li> <li>確認テスト等の得点</li> <li>定期考査の得点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>各種課題等の記述内容</li> <li>確認テスト等の点数</li> <li>定期考査の点数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>各種課題等の提出状況や期日</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C (40%未満) とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C (40%未満) とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C (40%未満) とする
評定 及び 観点別学習状況の評 価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満) の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

【学習活動や学習のねらい】

- ・〈理解・説明〉 … 物理現象を理解し、日本語で正しく説明ができる。
- ・〈図示〉 … 適切な図を用いて、物理現象を表現できる。
- ・〈数式〉 … 物理現象を適切な数式を用いて表現できる。法則を用いて、物理量を求めることができる。
- ・〈グラフ〉 … グラフを用いて物理量どうしの関係性を表現できる。

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	第1部 物体の運動とエネルギー ・第1章 物体の運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理量の表し方・測定値や誤差の扱い方・有効数字・科学表記〈理解・説明〉〈数式〉</li> <li>・変位と速度・等速直線運動〈図示〉〈数式〉〈グラフ〉</li> <li>・合成速度・相対速度〈図示〉</li> <li>◎実験「等速直線運動の測定」</li> <li>◎実験「合成速度と相対速度の測定」</li> </ul>	○ ○ ○	○ ○	○ ○
5	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・速度が変わる運動・等加速度直線運動〈理解・説明〉</li> <li>・自由落下運動・鉛直運動・水平投射〈図示〉〈数式〉〈グラフ〉</li> <li>◎実験「重力加速度の測定」</li> </ul>	○	○	○
6	6	・第2章 力と運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>★前期中間考査</li> <li>・力とつり合い・力の合成と分解〈理解・説明〉〈図示〉</li> <li>・垂直抗力と弾性力〈理解・説明〉〈図示〉</li> <li>・慣性の法則〈理解・説明〉</li> <li>◎実験「つり合いの条件」</li> </ul>	○ ○ ○	○ ○	○ ○
7	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の変化と力〈理解・説明〉〈数式〉</li> <li>・作用・反作用の法則〈理解・説明〉〈図示〉</li> <li>・動摩擦力とその性質・静摩擦力とその性質〈図示〉</li> <li>・空気の抵抗力・水圧と浮力〈図示〉〈数式〉</li> <li>◎実験「静摩擦係数の測定」</li> <li>◎実験「浮力の測定」</li> </ul>	○ ○	○ ○ ○	○ ○
8	2	・第3章 仕事とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事・仕事率〈数式〉</li> <li>・運動エネルギー〈数式〉</li> </ul>		○ ○	
9	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・位置エネルギー〈数式〉</li> <li>・力学的エネルギーの保存〈図示〉〈数式〉</li> <li>◎実験「仕事の測定」</li> <li>◎実験「力学的エネルギー保存の法則」</li> <li>★前期期末考査</li> </ul>	○	○ ○ ○	○ ○
		第2部 熱 ・第1章 熱とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温度と熱・熱と物質〈理解・説明〉〈グラフ〉</li> <li>・熱の移動と保存・熱と仕事〈図示〉〈数式〉</li> </ul>	○	○	○
10	8	第3部 波 ・第1章 波の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱機関と不可逆変化〈理解・説明〉</li> <li>◎実験「比熱の測定」</li> <li>・いろいろな波・波の表し方〈理解・説明〉〈図示〉</li> <li>・横波と縦波〈理解・説明〉〈図示〉〈グラフ〉</li> <li>・波の重ね合わせ・定在波・波の反射〈図示〉〈グラフ〉</li> </ul>	○ ○	○	○
11	8	・第2章 音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音波〈理解・説明〉〈数式〉</li> <li>・弦の固有振動〈図示〉〈数式〉</li> <li>・気柱の固有振動〈図示〉〈数式〉</li> <li>◎実験「音波の観察」</li> <li>◎実験「気柱共鳴と音速の測定」</li> </ul>	○	○ ○ ○	○ ○

		第4部 電気と磁気 ・第1章 静電気と電流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動いていない電気、動いている電気〈理解・説明〉</li> <li>・電流と電気抵抗〈図示〉〈数式〉〈グラフ〉</li> <li>・直列接続と並列接続〈図示〉〈数式〉</li> <li>・電力と電力量〈数式〉</li> </ul>	○		
			★後期中間考査	○	○	
12	6	・第2章 交流と電磁波	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電流がつくる磁場〈図示〉</li> <li>・発電機のしくみ〈理解・説明〉</li> <li>・直流と交流〈理解・説明〉〈グラフ〉</li> <li>・電磁波〈理解・説明〉</li> <li>◎実験「電気回路の設計（タブレットを使用して）」</li> <li>◎実験「電気回路の作成と電流・電圧・抵抗値の測定」</li> <li>◎実験「クリップモーターの製作」</li> <li>◎実験「電磁波の確認（スピーカーと太陽電池を使って）」</li> </ul>	○	○	
				○		○
				○		○
				○		○
				○		○
1	5	第5部 物理と私たちの生活 ・第1章 エネルギーとその利用 ・第2章 物理学が拓く世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの変換と保存〈理解・説明〉〈図示〉</li> <li>・原子核のエネルギー〈理解・説明〉〈図示〉</li> <li>・放射線の利用と安全性〈理解・説明〉</li> <li>・エネルギーの利用と課題〈理解・説明〉</li> </ul>	○	○	
			★後期期末考査	○	○	
2			家庭学習期間			
3						

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	公民	年次	3	コース	共通
科目名	政治・経済	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	「最新 政治・経済」(実教出版)				
副教材(出版社)	「最新 政治・経済 演習ノート」(実教出版)				
教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。		
科目の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 社会の在り方に関する現実社会の諸課題の解決に向けて探究するために手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとする。	(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題を理解する視点や基本的な概念の理解を図り、諸資料から情報を適切に調べる技能を身に付ける。</li> <li>一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、ものごとを多面的・多角的に考察する力を養う。</li> <li>資料から適切な情報を選択し、課題を追究する活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを通して、判断基準や、現実可能性などを考察し、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</li> </ul> <p>究の方法を身に付ける。</p>
(2) 学習に当たって	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持ち、調べたりすることで論点や疑問を持つことに努める。</li> <li>客観的な資料に基づいて、諸課題を考察し、解決のあり方を模索する態度を身に付ける。</li> </ul>

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行っている。また、粘り強い取り組みを行い、自らの学習を調整しようとしている。
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の点数</li> <li>小テスト等の点数</li> <li>ワークシート等への完成度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の点数</li> <li>テスト等の点数</li> <li>ワークシート等への記述</li> <li>観察(学習状況、討論・発表など)</li> <li>学習の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>観察(学習状況、対話・討論・発表など)</li> <li>学習の振り返り</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(90%以上)、4(80%~90%未満)、3(50%~80%未満)、2(40%~50%未満)、1(40%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態

4	6	<p>第1部 現代日本の政治・経済</p> <p>第1編 現代日本の政治</p> <p>1章 現代国家と民主政治</p> <p>1 民主政治と法</p> <p>2 民主政治の基本原則</p> <p>3 民主政治のしくみと課題</p> <p>4 世界のおもな政治制度</p> <p>2章 日本国憲法と基本的人権</p> <p>1 日本国憲法の成立</p>	<p>「政治」「国家」「近代民主国家」とは何かを理解する。それらがどのように成立したかを理解する。</p> <p>・法と権力の関係を理解するし、現在の状況について考察する。</p> <p>・社会契約説とは何かを理解する。</p> <p>・国民主義、議会制民主主義、立憲主義について理解し、現在の状況について考察する。</p> <p>・大統領制と議院内閣制を理解する。</p> <p>日本国憲法はどのようにして制定されたのかを理解する。</p> <p>・明治憲法との違いについて理解する。</p>	○	○	○
5	8	<p>2 日本国憲法の基本原則</p> <p>3 自由に生きる権利（1）</p> <p>4 自由に生きる権利（2）</p> <p>5 平等に生きる権利</p> <p>6 社会権と参政権・請求権</p> <p>7 新しい人権</p> <p>8 人権の広がり と 公共の福祉</p> <p>9 平和主義と自衛隊</p>	<p>・三大基本原則と、それがどのように反映されているのかを理解する。</p> <p>・自由権について具体的に理解する。</p> <p>・様々な自由について公共の福祉の概念とともに理解する。</p> <p>・平等権について具体的に理解する。</p> <p>・社会権について具体的に理解する。</p> <p>・新しい人権や人権の拡大について理解する。</p> <p>・人権の拡大と公共の福祉の関係について理解する。</p> <p>・平和主義と自衛隊の関係について理解する。</p>	○	○	○
6	8	<p>10 日米安全保障体制の変化</p> <p>11 21世紀の平和主義</p> <p>第3章 日本の政治制度と政治参加</p> <p>1 政治機構と国会</p> <p>2 内閣と行政機能の拡大</p> <p>3 公正な裁判の保障</p> <p>4 地方自治と住民福祉</p> <p>5 政党政治</p> <p>6 選挙制度</p>	<p>・安良体制の役割の変化と、沖縄が抱えている問題について理解する。</p> <p>・有事法制とは何か、平和主義をかかげる日本が世界で果たす役割について理解する。</p> <p>日本の政治制度に関する基本用語と、制度の課題について考える。</p> <p>・国会の地位・役割・構成・権限とはどのようなものか理解する。</p> <p>・内閣の権限についてや、行政の民主化に必要なことを考察する。</p> <p>・司法権の独立がなぜ重要かを考察する。</p> <p>・地方自治の本旨とその実態を理解する。</p> <p>・政党政治にはどのような課題があるのかを考察する。</p> <p>・選挙制度の課題について、政治の実態を参照しながら考える。</p>	○	○	○
7	4	<p>7 世論と政治参加</p> <p>第2編 現代日本の経済</p> <p>1章 現代の経済社会</p> <p>1 経済活動の意義</p> <p>2 経済社会の変容</p> <p>3 経済主体と市場の動き</p>	<p>・政治参加の方法を理解し、政治に関する自らの意見や主張を表現する。</p> <p>日本経済のしくみに関する基本用語と、制度の課題について考える。</p> <p>・経済活動の意義と資金や資源の配分について理解する。</p> <p>・資本主義と社会主義の変容について考察する。</p> <p>・経済循環と市場の限界について理解する。</p>	○	○	○
8	4	<p>4 企業の枠割</p> <p>5 国民所得</p> <p>6 経済成長と国民の福祉</p> <p>7 金融の役割</p>	<p>・株式会社のしくみを理解しと企業の社会的責任について考える。</p> <p>・経済指標について理解する。</p> <p>・景気変動の要因を消費者の立場から理解する。</p> <p>・資金の流れや金融の種について理解する。</p>	○	○	○
9	8	<p>8 日本銀行の役割</p> <p>9 財政の役割と租税</p> <p>10 日本の財政の課題</p> <p>第2章 現代の日本経済と福祉の向上</p> <p>1 日本の経済の成長と課題</p> <p>2 中小企業と農業</p> <p>3 消費者問題</p> <p>4 公害防止と環境保全</p> <p>5 労働問題と労働者の権利</p>	<p>・金融政策の目的と通貨供給量の調整の意義を理解する。</p> <p>・財政政策の目的と租税の意義を理解する。</p> <p>・税制改革について理解し、財政の硬直化の影響について考察する。</p> <p>戦後復興の営みや、福祉の向上の過程について理解する。</p> <p>・1990年代以降の長期不況について理解する。</p> <p>・中小企業の課題と可能性について考察する。</p> <p>・消費者の権利について考察する。</p> <p>・公害の影響と、環境保全のために自分ができることを考察する。</p> <p>・労働者の権利の確立過程と具体的な権利について理解する。</p>	○	○	○
10	8	<p>6 こんにちの労働問題</p> <p>7 社会保障の役割と課題</p> <p>第3編 現代日本における諸課題の探究</p>	<p>・雇用形態の変化と職場における人権問題を理解し、自分ごととして考察する。</p> <p>・社会保障制度成立の過程と、自分に関係する制度について具体的に理解する。</p> <p>日本経済における諸課題について、興味・関心に沿って探究活動を行</p>	○	○	○

		課題探究活動 日本経済のあゆみとこれから	う。	○	○	○
11	8	第2部 現代の国際政治・経済 第1編 現代の国際政治 第1章 国際政治の動向と課題 1 国際社会と国際法 2 国際社会の変化 3 国際連合と国際協力 4 こんにちの国際政治 5 人種・民族問題 6 軍拡競争から軍縮へ 7 日本の外交と国際社会での役割  第1章 現代の国際政治 1章 国際経済理論 1 貿易と国際収支	国際政治を日本政治と関連させるまなざしを持ち、国際的な視野を持って考察・判断・表現する力を養う。 ・国際法の成立について理解する。 ・国際社会における人権の在り方について理解し、考察する。 ・国際連合と国際連盟の相違点を理解し、今後の国連の在り方について考察する。 ・冷戦後の国際政治の特徴について理解する。 ・人権・民族問題の原因について考察する。 ・核抑止論や軍縮の過程について理解する。 ・戦後日本外交の特徴とその結果について考察する。  現代の貿易の特徴を影響について理解する ・自由貿易と保護貿易の違いと、その特徴について理解する。	○	○	○
12	4	2 外国為替市場のしくみ  第2章 国際経済の動向と課題 1 第二次世界大戦後の国際経済 2 国際経済の動向 3 新興国の台頭 4 経済のグローバル化とICTでかわる世界経済	・外国為替のしくみと為替レートの変動がどのような影響を及ぼすのかを理解する。 戦後の経済体制とそれが今日の経済に及ぼした影響を理解する ・IMF体制とWTOが果たした役割を理解する。 ・経済統合や貿易協定の目的と結果について考察する。 ・新興国の特徴と国際経済に及ぼす影響について考察する。 ・経済のグローバル化の進展による影響とICTが経済に及ぼす影響について考察する。	○	○	○
1	4	5 発展途上国の課題と展望 6 地球環境問題、資源エネルギー問題 7 経済協力と日本の役割	・南北問題の原因について理解し、問題解決に関わって自分ができることを考察する。 ・化石燃料と大量消費・大量生産の関係を理解し、資源エネルギー問題の解決について考察する。 ・貧困や飢餓の問題を理解し、先進国の役割について考察する。	○	○	○
2	4	第3章 国際社会における諸課題の探究 ・SDGsの実現に向けて	日本経済における諸課題について、興味・関心に沿って探究活動を行う。	○	○	○
3	4	課題探究活動のまとめと発表	探究活動の省察を行い、よりよい発表の在り方を考察する。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	芸術（音楽）	年次	3	コース	共通
科目名	音楽Ⅱ	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	「高校生の音楽2」（教育芸術社）				
副教材（出版社）					
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。		
科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「練習」「演奏・発表」「個人で考えをまとめる」「グループで意見を交流する」等、様々な活動に取り組みます。それぞれの場面に合わせた態度で臨みましょう。</li> <li>・楽譜やプリントを配布します。無くさないようファイル等に保管しましょう。</li> </ul>
(2) 音楽を形づくっている要素
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の授業では「音色」、「リズム」、「速度」、「旋律」、「テクスチュア」、「強弱」、「形式」、「構成」を中心に知覚と感受を大切にしています。音楽の要素を感じながら聴きましょう。</li> </ul>

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。</li> <li>・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記テスト</li> <li>・実技テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞感想シート</li> <li>・表現工夫シート</li> <li>・実技テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動記録</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・観察</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1：1：1で集約し、5(80%以上)、4(60%～80%未満)、3(40%～60%未満)、2(30%～40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	鑑賞・歌唱 [ポピュラー音楽]	知識・技能を生かして、自己のイメージをもって表現を創意工夫する。 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりへの理解を深めて、表現する。	○	○	○
5	6	歌唱・器楽 [ギター]	豊かな声で歌うための、発声等の技能を高める。 強弱や発想記号等を音楽における働きと関わらせて深く理解する。	○	○	○
6	8		知識・技能を身に付けてそれらを生かし、自己のイメージをもって表現を創意工夫する。 楽器の特徴を理解し、表現をより良く工夫して演奏する技能を身に付ける。	○	○	○
7	6		楽典（コード等）を学習し、読譜の能力を身に付ける。	○	○	○
8	4	鑑賞 [ミュージカル]	ミュージカルの特徴を成り立ち、他の芸術との関わり等を理解し、よさや美しさを自ら味わって聴く。 ミュージカルに対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを自ら味わって聴く。	○	○	○
9	6	創作 [BGM]	音色やリズムの特徴を生かして、自己のイメージをもって表現を創意工夫する。 構成（反復、変化、対照等）を生かして、自己のイメージをもって表現を工夫する。	○	○	○
10	8	歌唱 [合唱]	創作活動をとおして、記譜の能力を高める。 楽曲の音色やリズム、構成の特徴を理解し、良さを自ら味わって聴く。	○	○	○
11	8		自己のイメージをもち、創意工夫して表現する能力を高める。 合唱の表現の特徴を理解し、創意工夫して表現する能力を高める。	○	○	○
12	6		全体の響きを感じ取り、他者との調和を意識して歌う技能を高める。	○	○	○
1	4	器楽 [リコーダー]	自己のイメージをもち、創意工夫して表現する能力を高める。 合奏の表現の特徴を理解し、表現を創意工夫する。	○	○	○
2	6		全体の響きを感じ取り、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける。	○	○	○
3	4	器楽 [ピアノ・キーボード]	知識・技能を身に付けてそれらを生かし、自己のイメージをもって表現を創意工夫する。 楽器の特徴を理解し、表現をより良く工夫して演奏する技能を身に付ける。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	理科	年次	3	コース	文理探究
科目名	理科探究	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	「新編化学基礎」(東京書籍) 「新編生物基礎」(東京書籍)				
副教材(出版社)	「ニューアチーブ化学基礎」(東京書籍)「レッツトライノート生物基礎」(東京書籍)				
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				
	(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
科目の目標	化学基礎・生物基礎を復習し、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 物質とその変化・および生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 実験・観察
- 各単元において適宜、実験・観察を行います。操作に対する説明を理解し、安全に実習に取り組みましょう。
  - 目的意識を持って実験・観察に取り組み、科学的に探究することの基礎を学びましょう。
- (2) 身につけるべき知識とその活用
- 物質とその変化または生物に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するための基礎力を身に付けましょう。
  - 学習した知識を基に、化学・生物と日常生活や社会との関わりを考え、表現しましょう。
- (3) 家庭学習
- 授業の予習・復習を行い、ワークブックや教科書の問題、授業プリントを用いた学習に繰り返し取り組むことで定着を図りましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、化学・生物に関する知識を総合的に身に付けている。 ・自然の事物・現象に関する観察、実験を行い、実験器具を正しく取り扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、様々な事象を科学的に探究する技術を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に課題を見だし、解決を目指して思考を深め、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・自然の事物・現象について、化学・生物に関する知識を基に、説明する力を養う。	・自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、化学的性質だけでなく、利用法について考えようとする態度を身に付けている。 ・命題について科学的な根拠を持って答える力や科学的な視点を持ち考える力を養う。
評価資料	・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の得点 ・定期考査の得点 ・課題研究の内容・発表	・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の得点 ・定期考査の得点 ・課題研究の内容・発表	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の提出状況や期日 ・確認テスト等の得点 ・課題研究への取組
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	●生物基礎 1節 生物と遺伝子 A 遺伝情報と形質	・親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい、遺伝は遺伝情報であるDNAによって担われていることを理解する。	○	○	○

5	6	B DNA と染色体  C ゲノム	<ul style="list-style-type: none"> <li>真核生物では、DNA が染色体の成分として存在することを理解する。</li> <li>生命の維持に必要な1組のDNAをゲノムといい、真核生物の細胞には両親に由来する2組のゲノムが含まれることを理解する。</li> <li>相同染色体とは何かを理解する。</li> <li>ゲノムの解読方法の進歩により、個人のゲノムを利用した医療などが可能になりつつあることについて理解を深める。</li> </ul>	○	○	○
6	8	2節 DNA の構造 A 塩基の相補性  B DNA の構造  C 塩基の並び方  ★探究活動① 【前期中間考査】	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝情報にはさまざまな形質に対応する情報が含まれ、父母の双方からの形質が別々に伝わることで、同じ生物の間でもわずかな形質の違いが生じることを理解する。</li> <li>真核生物では、DNA が染色体の成分として存在することを理解する。</li> <li>生命の維持に必要な1組のDNAをゲノムといい、真核生物の細胞には両親に由来する2組のゲノムが含まれることを理解する。</li> <li>相同染色体とは何かを理解する。</li> <li>ゲノムの解読方法の進歩により、個人のゲノムを利用した医療などが可能になりつつあることについて理解を深める。</li> </ul>	○	○	○
7	6	2節 神経系による情報伝達 A 神経系  B 自律神経系による調節  C 脳の構造とはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>体内環境の維持と自律神経系による調節を関連づけて理解する。</li> <li>日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考え、説明する。</li> <li>日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考える。</li> <li>脳の構造とおもなはたらきについて知る。</li> <li>脳死をめぐる見解について、さまざまな立場の人の意見を調べ、自分の考えを深める。</li> </ul>	○	○	○
8	4	3節 内分泌系による情報伝達 A ホルモンによる調節  B ホルモンの分泌量の調節  ★探究活動② 【前期期末考査】	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常のコミュニケーション手段の例から、情報伝達には特徴に合わせたさまざまな種類があることに気づく。</li> <li>内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について知り、ホルモンが受容されるしくみを理解する。</li> <li>間脳の視床下部がホルモン分泌の中核として機能することを理解する。</li> <li>ホルモンの分泌量がフィードバックによって調節されていることを理解する。</li> <li>ここまで学習した用語を使って、内分泌系を図で整理する。</li> </ul>	○	○	○

9	8	<p>●化学基礎</p> <p>4節 化学結合と物質の分類 ・化学結合と物質の分類</p> <p>3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量 ・原子量・分子量・式量</p>	<p>・結合の種類から物質の性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える</p> <p>・原子の相対質量の考え方を理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。</p>	○ ○	○ ○	○ ○
10	7	<p>2節 物質質量 ・アボガドロ数と物質質量 ・1 mol の気体の体積</p> <p>3節 溶液の濃度 ・溶液の濃度</p> <p>4節 化学反応の表し方 ・化学反応式・イオン反応式</p> <p>5節 化学反応の表す量的関係 ・化学反応の表す量的関係</p> <p>★探究活動③</p>	<p>・粒子の数に基づく量の表現が物質質量であることを知る。 ・物質量とその単位の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・化学変化に伴う質量変化に注目し化学の基本法則を知る。</p>	○ ○	○ ○	○ ○
11	7	<p>3編 物質の変化 2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基 ・酸と塩基の価数</p> <p>2節 水素イオン濃度と pH ・水素イオン濃度 ・水素イオン濃度と pH ・pH 指示薬と pH の測定</p> <p>3節 中和反応と塩の生成 ・中和反応と塩の生成 ・塩の種類</p>	<p>・酸と塩基の性質について理解し、実験を通して確認する。 ・アレニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。</p> <p>・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・pH 指示薬と変色域により、水溶液の pH が測定できることを知る。</p> <p>・実験観察を通して、身近な物質の pH や希釈した水溶液の pH の変化を比較し考える。 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を理解する。 ・実験観察を通し、塩の水溶液の pH を測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。</p>	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
12	6	<p>【後期中間考査】 4節 中和滴定 ・中和滴定の量的関係 ・中和滴定 ・滴定曲線</p>	<p>・中和の条件は、酸から生じる H<sup>+</sup>の物質量と塩基から生じる OH<sup>-</sup>の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。</p>	○ ○	○ ○	○ ○
1	4	<p>★探究活動④</p> <p>【後期期末考査】</p>	<p>・各自でテーマを決め課題研究を進める。 ・探究の成果を発表する。</p>	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	数学	年次	3	コース	共通
科目名	数学C	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	新編 数学C(数研出版)				
副教材(出版社)	3 TRIAL 数学C(数研出版)				
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。				
	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。		
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成する。				
	(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 課題学習型授業  
主に与えられた問題を解くことで、思考力や自主学習能力を向上させます。考査は選択制で、1学年時の考査形式を踏襲し8割が共通問題、2割は標準問題及び基礎問題とします。標準問題が評価に大きく関わります。
- (2) 家庭学習  
「わかる」と「できる」は同じではありません。「わかる」ために授業をフル活用し、「できる」ようになるために家庭学習(授業時間外の学習)を習慣にしてください。問題集、スタディサプリ等に繰り返し取り組みましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	基礎基本の問題を解くことができる。	応用問題について理解しようとし、グループ活動等を活用して解くことができる。	基礎基本の問題にきちんと取り組むことができる。 応用問題へも積極的に取り組み、解こうとする。
評価資料	・考査 ・各種課題の内容	・考査 ・ワークシート等の記述内容 ・グループ活動等の発表内容	・各種課題の提出状況 ・グループ活動への参加状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	6	第1章 平面上のベクトル	・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解する。 ・ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解する。 ・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する。 ・実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察する。	○		○
		第1節 ベクトルとその演算		○		○
		1 ベクトル			○	○
		2 ベクトルの演算			○	○
5	7	3 ベクトルの成分				
		4 ベクトルの内積				
		第2節 ベクトルと平面図形				
		5 位置ベクトル				
		6 ベクトルの図形への応用				
7 図形のベクトルによる表示						

6	7	第2章 空間のベクトル 1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする。</li> <li>・数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する。</li> </ul>			
7	7	4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への応用 6 座標空間における図形				
8	5	第3章 複素数平面 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解する。</li> <li>・曲線の媒介変数表示について理解する。</li> <li>・極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解する。</li> <li>・複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解する。</li> <li>・ド・モアブルの定理について理解する。</li> <li>・放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察すること。</li> <li>・複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察する。</li> <li>・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして、媒介変数や極座標及び複素数平面の考えを問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。</li> </ul>			
9	7	4 複素数と図形 第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円				
10	9	3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線				
11	9	第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用				
12	7	第5章 数学的な表現の工夫 1 データの表現方法の工夫 2 行列による表現 3 離散グラフによる表現 4 離散グラフと行列の関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の事象や社会の事象などを、図、表、統計グラフなどを用いて工夫して表現することの意義を理解する。</li> <li>・日常の事象や社会の事象などを、離散グラフや行列を用いて工夫して表現することの意義を理解する。</li> <li>・図、表、統計グラフ、離散グラフ及び行列などを用いて、日常の事象や社会の事象などを数学的に表現し、考察する。</li> </ul>			
1	5	探究課題				

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	年次	3	コース	文理
科目名	日本史探究	履修区分	選択	単位数	4
教科書(出版社)	「 高校日本史 」(山川出版社)				
副教材(出版社)	「 日本史探究 高校日本史 基本用語問題集 」(山川出版社)				
教科の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。				
	(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。				
	(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業の進め方

- ・予習や振り返りなどにより、日本の古代から近現代の歴史を捉える基本的な概念や知識を身に付ける。
- ・一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、物事を多面的・多角的に考察し、他者の意見を交えて合理的かつ公正に判断する力を身に付ける。
- ・資料から適切な情報を選択し、課題を追究したり解決したりする活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、課題追究・課題解決の方法を身に付ける。

(2) 学習に当たって

- ・メディアによる報道をはじめとする様々な情報発信の取舍選択を適切に行い、現代的特質や課題に関心を持つ。
- ・関心事項の調査や考察をおこない、論点を見いだすところに歴史学習の本質的なねらいがあることを理解する。
- ・疑問や気づき・発見を大切にするとともに、他教科科目の学びも活かしながら主体的に学習活動をおこなう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	社会的事象の歴史的な見方考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	歴史的諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や歴史的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断して、伝統と文化の形成や社会参画の形態を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	・よりよい社会の実現を視野に、歴史的な事象の歴史考証を行い、現代の諸課題を主体的に解決しようとする学習への意欲がある。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価資料	・定期考査の点数 ・小テスト等の点数 ・ワークシート等の記述内容 ・学習の振り返り	・定期考査の点数 ・ワークシート等の記述内容 ・観察(学習状況、討論・発表など) ・学習の振り返り	・定期考査の点数 ・対話的で意欲的な学習活動 ・ワークシート等の記述内容 ・観察(学習状況、討論・発表など) ・学習の振り返り
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(90%以上)、4(80%~90%未満)、3(50%~80%未満)、2(40%~50%未満)、1(40%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	12	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化の始まり 2 農耕の開始 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	旧石器から縄文・弥生への変移は、自然環境の変化にともなう人々の生活の変化であることを学ぶ。 ・旧石器時代から縄文時代の遺跡などをもとに日本人のルーツを探る。 ・弥生人の生活・文化の大転換の原因を探る。 ・人々がムラやクニを形成した目的と理由を探る。 ヤマト政権がめざした国家像を古墳や大陸との関係から学ぶ。 ・古代の国家が広大な勢力を形成・維持を可能にした理由を探る。 ・大陸や半島とのつながりによる日本社会や文化への影響を探る。 ・東アジアにおいて古代日本が受けた影響を多面的に探る。 中華が日本に影響を考えながらも日本の政治が成立することを学ぶ。 ・奈良時代から平安時代初頭に律令化が進んだ背景を探る。 ・律令国家以前と以後の違いを考察する。 ・仏教の特色が日本で変貌することについて理由を探る。	○	○	○
		第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士団の成長	律令政治の変容で摂関政治が開始され、課税基準が人から土地に変化したことで地方支配が強化されていくことを学ぶ。 ・律令制度の変容は制度の崩壊か、現実を踏まえた変化なのか主体的に考え判断する。 ・国風文化が栄えた背景と基盤について説明する。 ・地方支配強化の中で生まれた受領と荘園や武士の関係について理解する。	○	○	○
		第II部 中世 第5章 院政と武士の進出 1 院政のはじまり 2 院政と平氏政権 第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立と展開 2 モンゴル襲来と幕府の衰退 3 鎌倉文化	地方武士の成長と荘園の発展のなか、摂関政治が衰退して院政と武士の台頭を招く背景を学ぶ。 ・中世の朝廷と武家政権との関係について探る。 ・院政・武家政権・寺社などが台頭してきた背景に着目し、古代と中世の特徴についてまとめ整理する。 争乱後に源氏による武家政権が誕生し幕府を開いたが、その幕府が全国的な政権に成長していくなかで武士を変質させていくことを学ぶ。 ・鎌倉時代の時代区分を行い、その理由を考察する。 ・鎌倉幕府が武士の結集を図れた理由を探る。 ・鎌倉時代の発達した経済的特徴を幕府設立前と後で比較表現する。 ・モンゴル襲来が海外との交流に与えた影響を考察する。	○	○	○
		第7章 武士社会の成長 1 室町幕府の成立 2 下剋上の社会 3 室町文化 4 戦国の動乱	南北朝動乱は武士の家族制度は変え、幕府は朝廷との距離を縮め、幕府下では守護が自立性を強めた。この社会の大変革について学ぶ。 ・14世紀から16世紀にかけて都市や村に自治組織が成立した理由を考察する。 ・15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した最も大きな理由を考察する。	○	○	○
8	8	第III部 近世 第8章 近世の幕開け 1 天下人の登場 2 豊臣政権と桃山文化 第9章 幕藩体制の成立と展開 1 江戸幕府の成立 2 江戸初期の外交と文化	世界やアジアの交易が活発ななか全国統一をめざす者が出現し、政治や社会の有り様も変わっていくことを学ぶ。 ・豊臣政権が築いた支配の仕組みは江戸時代に引き継がれていくことを武士・百姓・町人それぞれの立場を比較表現する。 ・国際交流の進展や全国統一などの時代転換に着目し、近世の特徴について比較表現する。 徳川政権と江戸時代の社会構造が安定した理由を考え、統治制度や外交秩序などや生産・経済活動にもつながったことを学ぶ。 ・江戸時代が長期的に安定した要因と重要なことについて考察し、理由を探る。	○	○	○
		3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	・国内外の平和と安定によって、社会や経済が変化した内容について検討する。	○	○	○
9	16			○	○	○

		第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化	幕藩体制の経過のなかで社会の矛盾が生じる。幕府は改革を試みるが訴訟や一揆、打ちこわしが発生し、外国の圧力も強まる。幕府の衰退・崩壊がおこる原因について学ぶ。 ・幕府支配に動揺を与え崩壊を招いていく出来事について探る。 ・幕末までの文化の流れを、社会の動きに合わせてまとめる。 ・江戸時代後期に日本は海外から受けた影響について考察する。	○	○	○
10	16	第IV部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 1 開国とその影響 2 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1 明治維新 2 立憲国家の成立	列強による東アジア進出に対して幕府による対外的危機への対応から国内の動乱がはじまり、幕府・朝廷・諸藩がいかに動いたかを学ぶ。 ・幕末の動乱と新しい政治体制への模索が、日本の近代化に与えた影響を考察する。 ・幕末の国際関係の展開が政治や社会に与えた変化に着目し、近現代の特徴について表現する。 廃藩置県や身分制を解体した明治政府はさまざまな改革に着手し、欧米の立憲主義に寄せたが、国際関係や地域社会に与えた影響を学ぶ。 ・近代国家の建設が国際関係に与えた影響を考察する。 ・近代国家の成立に対して国民の反応について探る。	○	○	○
11	16	第13章 近代国家の展開と国際関係 1 大陸政策の展開 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代の文化 3 市民生活の変容と大衆文化 第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	議会政治が定着する一方で、条約改正や戦争での勝利が日本を変貌させる。日本が新たな国際関係の構築を図ることを学ぶ。 ・近代日本が大陸政策で目指した目標とは何かを考察する。 ・第一次世界大戦が国際社会に与えた影響を探る。 ・第一次世界大戦が日本に与えた影響を探る。 舶来の技術による産業革命が日本の学校制度を整え社会の枠組みをつくり人々の暮らや文化を変えた。その変化の現代との差異を学ぶ。 ・経済や文化の急速な変化が社会に与えた影響について探る。 ・マスメディアの発達による社会の変化を探る。 ・新たな思想や出来事が人々の暮らしに与えた影響を探る。 政党政治やヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊が日本を戦争に導くことになったが、日本が辿った道について学ぶ。 ・日本が戦争を開始・拡大させた原因を探り、日本国内外の地域の人々に与えた被害について考察する。 ・アメリカとの関係や国際協調を維持するために必要だった施策を検討する。	○	○	○
12	8	第16章 現代の世界と日本 1 占領下の改革と主権の回復 2 55年体制と高度経済成長 3 現代の情勢 現代日本課題の探究	アメリカが占領した日本での改革やその後の冷戦構造のもとでの高度経済成長は人々の生活を変えた。冷戦後も変化が続く現代について学ぶ。 ・第二次世界大戦後の国際社会で日本が果たした役割を考察する。 ・戦後日本の経済成長の背景や理由、人々の生活の変化について探る。 ・不況の時代を経験し、新たな問題や課題が生じたことを確認する。 日本が直面する以下の諸課題から資料を活用して探究をする。 I 「伝統や文化の継承と創造」 II 「社会や集団と個人」 III 「世界のなかの日本」 ①資料をもとに仮説を立てる。 ②仮説の検証をおこなう。	○	○	○
1	4		③現代につながる課題を指摘する。 ④学習の成果を共有する。			
2						
3						

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	商業	年次	3	コース	文理探求/ビジネス
科目名	ビジネス基礎	履修区分	3年選択	単位数	4
教科書(出版社)	「ビジネス基礎 Foundation of Business」(実教出版)				
副教材(出版社)	「 」				
教科の目標	商業の学習活動を通じて、地域産業をはじめとする経済社会の持続的な発展を担う職業人として必要な資質と能力を育成する。				
	(1) 商業各分野における関連技術を身に付ける。	(2) ビジネスに関する課題の発見、創造的な解決能力を養う。	(3) 職業人としての豊かな人間性を育み協働的に取り組む態度を養う。		
科目の目標	ビジネス4分野(マーケティング、マネジメント、会計、情報)について基本知識を学ぶ。				
	(1) 基礎知識の定着(特に会計分野に必須とされる計算能力)とコミュニケーションスキルの向上を目指す。	(2) 課題の発見、課題解決に向け根拠を基に解決案を創造する力を養う。	(3) 自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う。 また、社会と同様に以下を徹底する。 ・規律の徹底(身嗜み、授業姿勢) ・メタ認知の遵守 ・マナー・挨拶		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 授業内では、ビジネス用語が多く登場するので、ノートなどにしっかり書きとめる習慣をつけましょう。
- (2) 割合、%表示など、小数や分数を使う計算が多用されます。苦手意識のある人は復習しておくようにしましょう。
- (3) 自分の考えを発表する場面では、オリジナリティーが求められます。人と違う意見をどんどん発表しましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テスト(70点を合格点とし、合格に満たない場合は、レポート課題の追提出を課す)</li> <li>提出課題の取り組み状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テスト</li> <li>提出課題の取り組み状況</li> <li>課題発見から課題解決までの過程</li> <li>ニュース発表(内容、感想) ビジネスにおいて社会情勢にアンテナを張ることは必須のスキルです。特に自身の進路先や将来就きたいと考えている職業とそのニュースがどのような関係を持つのかを考えることが重要です。したがって、原因を深掘していないニュースの見方をしている発表(例えば芸能ニュースや交通事故・地域の事件など)は、評価しません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身嗜み(校則遵守) 特に、Yシャツの裾が出ていたり、ネクタイ・リボンがだらしなく垂れ下がっていたり(第1ボタン開放も)と、制服着用ルールは徹底します。</li> <li>居眠りや授業と無関係なタブレット使用などが確認される場合の減点</li> <li>課題の取り組み状況(メタ認知)</li> <li>出席(評価期間の授業数に対し2割を上限值として欠席数を評価)</li> </ul>
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テスト</li> <li>課題レポート</li> <li>ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テスト</li> <li>ニュース発表</li> <li>課題レポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠</li> <li>身嗜みチェック表</li> <li>課題提出状況</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	20	社会とビジネス (教科書1章)	社会のあらゆるビジネスについてどのような形態があるのかを知る。	○	○	○
5		ビジネスコミュニケーション (教科書2章)	ビジネスの基本は、コミュニケーションである。お客のいないビジネスは存在しないので、コミュニケーションの基本である挨拶を中心に学びます。			

6	30	ビジネス計算 (教科書5章) (教科書7章)	貸借対照表(BS) 損益計算書(PL)をはじめとするビジネスにおける財務諸表の基本を学ぶと共に、割合計算を中心とした基本知識の復習を行い、学校祭の模擬店において実践学習を行う。	○	○	○
7						
8	40	売買取引 (教科書6章)	ビジネスの基本である掛け売りを中心とした売買契約と支払いの流れについて学びます。	○	○	○
9						
10						
11	30	マーケティング (教科書5章)	マーケティングの成功例をもとに、基本的な手法である4P分析、STP分析を学びます。	○	○	○
12						
1						

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育	年次	3	コース	スポーツ&ヘルス
科目名	スポーツ総合演習	履修区分	選択	単位数	4
教科書(出版社)	「 」( )				
副教材(出版社)	「 」				
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。				
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指す。スポーツに関する職業について、講演、交流、体験を通じて学び、スポーツに携わっていく資質、能力、情報を身につけるとともに、実際にスポーツに関するサービス・サポートの提供体験を通して、社会でのルール、マナー、職業観を身につける。				
	(1) スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。	(2) スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組む態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 男女共修で実施する。
- (2) 座学でスポーツや体、運動に関する知識を学習し、実践では地域のNPO法人(スポーツクラブ)と連携しながら、スポーツ講座を行い、コミュニケーション力や実践力を身につけていく。
- (3) 地域住民やスポーツクラブの職員との関わりが多くなるため、ルールやマナーを大切にすること。
- (4) 健康・安全に留意して活動すること。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<計画：レポート内容で評価> ①目的や効果が明確か ②実施方法の検討 ③伝え方や実施準備 ④安全管理の視点 <実践：講座活動観察で評価> ①運動の目的の達成度 ②運営準備や連携 ③先を読む行動が取れているか ④コミュニケーション・会話 ⑤安全管理	<計画：レポート内容で評価> ・グループでの対話への関わり方 ・自分の考えや気づき ・他者の視点 <実践：レポート内容で評価> ①運動の目的の達成度 ②運営準備や連携 ③先を読む行動が取れているか ④コミュニケーション・会話 ⑤安全管理	<レポートと活動観察で評価> ・課題レポートの提出の有無や期限内の提出 <活動観察で評価> ・話し合いやプログラム運営の際の関わり方 ・学習に対して意欲的、主体的に取り組もうとしている。 ・役割など責任を持って自主的に取り組んでいるか。 ・危険を予測しながら回避行動を取るなど健康・安全に配慮し、行動できているか。
評価資料	・活動状況の観察 ・各活動毎のレポート記述内容	・活動状況の観察 ・各活動毎のレポート記述内容	・活動状況の観察 ・健康・安全を意識した取り組み方 ・自主的・計画的な取り組み方 ・仲間との関わりとその協力する態度
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%～79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%～80%未満)、3(40%～60%未満)、2(30%～40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	12	・オリエンテーション ・運動講座事前指導 ・運動講座補助・レポート作成（1～2回）	・1年間のプログラムについて理解する。 ・授業でのルールや一般的な礼法・マナー・モラルなど社会人として必要な資質について学ぶ。 ・スポーツクラブと連携し、町民向け運動講座の運営に向けての事前指導及び補助活動を行う	○	○	○
5	14	・運動講座実践（3回） ・レポート作成 ・ゴルフ	・町民向け運動講座の補助運営とその活動の実践、振り返りを行う。 ・校外において、生涯スポーツの1つを実践する。	○	○	○
6	14	・運動講座実践（4回） ・レポート作成 ・ゴルフ	・町民向け運動講座の一部を運営し、その活動の実践、振り返りを行う。 ・校外において、生涯スポーツの1つを実践する。	○	○	○
7	4	・運動講座プログラム企画・運営計画	・町民向け運動講座の1枠分（50分程度）のプログラムを考案し、準備・リハーサルを行う。	○	○	○
8	5	・運動講座プログラム企画・運営計画	・町民向け運動講座の1枠分（50分程度）のプログラムを考案し、準備・リハーサルを行う。	○	○	○
9	10	・運動講座実践（5回） ・レポート作成 ・前期レポート作成	・町民向け運動講座の1枠分（50分程度）のプログラムを考案し、実践する。またその活動の振り返りを行う。 ・前期振り返りレポートの作成	○	○	○
10	17	・運動講座実践（6/7回） ・レポート作成 ・パークゴルフ	・町民向け運動講座の1枠分（50分程度）のプログラムを考案し、実践する。またその活動の振り返りを行う。 ・校外において生涯スポーツの1つを実践する。	○	○	○
11	15	・運動講座実践（8回） ・レポート作成 ・探究レポート活動	・町民向け運動講座の1枠分（50分程度）のプログラムを考案し、実践する。またその活動の振り返りを行う。 ・これまでの活動を振り返って、自己に関する探究及び将来の仕事に対する探究レポートを作成する。	○	○	○
12	10	・探究レポート作成活動	・これまでの活動を振り返って、自己に関する探究及び将来の仕事に対する探究レポートを作成する。	○	○	○
1	5	・スポーツレクリエーション	・自分たちで企画したプログラムで交流を図る。	○	○	○
2						
3						

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	福祉	年次	3	コース	福祉
科目名	こころとからだの理解	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	こころとからだの理解(実教出版)				
副教材(出版社)					
教科の目標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
科目の目標	(1) 自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				

1 学習の進め方と留意点

- ・講義および調べ学習、高齢者疑似体験、グループワークなど演習を取り入れながら学習をすすめます。
- ・人体について心理面と身体面の両面から学ぶとともにバイタルサインと関連させ日常生活における観察技術と結び付けて理解します。
- ・介護職員は人と密接に関わる職業です。信頼関係を築けるような身だしなみ、日常動作(挨拶、時間を守る、)等を心がけてください。
- ・生徒一人ひとりが考え、自分の意見を自らの言葉で発表し、意見交換ができるようになることを目指します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	要介護者に対し、安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身につけている。 安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解する必要があるということを理解している。	より安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察している。	介護に従事する者として人間の心身に關心をもち、より安全で安楽な介護技術の提供を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容 ・定期考査の点数 ・実技テストの点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容と工夫 ・定期考査の点数 ・実技テストの点数 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容、期日の厳守 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

月	時数	学習内容	具体的内容	学習のねらい	評価の観点		
					知	思	態
		第1編 私たちの暮らしと生活支援	第1章 心のしくみの理解  1 私たちの生活を福祉	・介護従事者として必要な、基本的なこころのしくみについて理解する。  ・介護従事者として、健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現する。 ・人間のこころとは何か、人間の欲求や尊厳と関連させながら考え、理解する。	○		
					○	○	

4	5		<p>2 人間の欲求の基本的理解</p> <p>3 自己概念と尊厳</p> <p>4 意欲・動機づけのしくみ</p> <p>5 思考・感情のしくみ</p> <p>6 記憶・学習のしくみ</p>	<p>・人間のこころの動きやこころのしくみを、事例学習をすることにより気づき、理解する。</p> <p>・介護従事者として必要な、基本的なからだのしくみについて理解する。また、そのために必要な知識を身につける。</p> <p>・人間がどう生命を維持し、機能のバランスをとりながら生きているかを理解する。</p> <p>・物事を考える、様々な信号をキャッチする、からだの調子を整える等、脳や神経のしくみを理解する。</p>	○		○
			<p>第2章からだの仕組みの理解</p> <p>1 生命維持・恒常性のしくみ</p> <p>2 脳・神経系のしくみ</p> <p>3 運動器系のしくみ</p> <p>4 循環器系のしくみ</p> <p>5 消化器系のしくみ</p> <p>6 呼吸器系のしくみ</p>	<p>・歩く、走る、立つ、座る、階段の昇降機、運動器のしくみを理解する。</p> <p>・血液を全身に送り出す、血液を体内に運ぶ等、循環器のしくみを理解する。</p> <p>・食べ物を食べる、消化する、排せつする等、消化器のしくみを理解する。</p> <p>・息を吸う、吐く、ガス交換等、呼吸器のしくみを理解する。</p>	○	○	○
5	6		<p>7 感覚器系のしくみ</p> <p>8 内分泌系のしくみ</p> <p>9 泌尿器系のしくみ</p> <p>10 生殖器系のしくみ</p> <p>11 血液・免疫系のしくみ</p>	<p>・見る、聴く、嗅ぐ、感じる等、感覚器のしくみを理解する。</p> <p>・ホルモンを分泌し、身体の様々な機能を司る内分泌器のしくみを理解する。</p> <p>・尿を生成し、体外に排せつする。血圧の調整をする等、泌尿器のしくみを理解する。</p> <p>・精子や卵子の産生、役割、妊娠、出産、月経等、生殖器のしくみを理解する。</p> <p>・血液の産生、役割、体内に入ってきた異物を除去する等、血液や免疫系のしくみを理解する。</p>	○	○	○
		第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解	<p>第1章 生活動作に関するこころとからだのしくみ</p> <p>1 身じたくに関するこころとからだのしくみ</p> <p>2 移動に関するこころとからだのしくみ</p> <p>3 食事に関するこころとからだのしくみ</p> <p>4 入浴・清潔に関するこころとからだのしくみ</p> <p>5 排せつに関するこころとからだのしくみ</p> <p>6 睡眠に関するこころとからだのしくみ</p>	<p>・生活支援と心身の構造の関連を考察し、安全で安楽な介護技術を提供するために必要な身体各部位の構造を統合させる。</p> <p>衣服の着脱、整容、口腔の清潔を安全、安楽に支援するための、心身の構造を理解する。</p> <p>・身の回りの動作を安全、安楽に支援するための、心身の構造を理解する。からだの機能低下や障害が及ぼす影響(骨折、廃用症候群、褥瘡)について理解し、その予防方法について考察する。</p> <p>・食事の摂取の安全、安楽にするための、心身の構造を理解する。食べ物や水分が良好に摂取できない場合の心身の変化について理解し、その予防方法について考察する。</p> <p>・からだの清潔を安全、安楽に支援するための、心身の構造を理解する。入浴が心身に及ぼす影響について理解する。皮膚機能の低下や障害がからだに及ぼす影響について理解する。</p> <p>・排せつを安全、安楽に支援するための、心身の構造を理解する。排せつの障害がからだに及ぼす影響について理解し、その予防方法について考察する。</p> <p>睡眠を安全、安楽に支援するための、心身の構造を理解する。加齢に伴う睡眠の変化について理解する。睡眠の障害がからだに及ぼす影響について理解し、その予防方法について考察する。</p> <p>・人間の様々な状況における心身の状態の変化について理解する。</p>	○	○	○
6	9		<p>第2章 生活に関するこころとからだの特徴</p>		○	○	○
7	7				○	○	○

			<p>1 感染症に関するこころとからだのしくみ</p> <p>2 終末期に関するこころとからだのしくみ</p> <p>3 緊急時に関するこころとからだのしくみ</p>	<p>・感染症の基礎的知識を理解し、感染予防について考察し、実践できる。感染症発症時の対応ニツについて理解し実践できる。</p> <p>・人が死ぬということについて考察する。終末期の心身の変化について理解する。死後の身体変化とその対応について理解する。人が死を受容する過程を理解する。終末期に必要な他職種との連携について考察する。人それぞれの終末期のあり方について考察する。</p> <p>・緊急時に起こる、心身の様々な変化とその対応について理解する。</p>	○		
8	5	第3編 人間の成長とその発達の基礎的理解	<p>第1章 発達とは</p> <p>1 発達と老化の理解</p> <p>2 人間の発達と発達課題</p>	<p>・成長と発達とはどのようなことか、加齢に伴う変化や個人差について理解する。</p> <p>・発達とは何か理解する。発達と環境の関連性について理解する。発達段階とは何か理解する。</p> <p>・人間の発達と発達課題についての、様々な理論家の呈する定義にふれる。</p> <p>・老化の特徴、老化と加齢の違いについて理解する。エリクソンの心理学的発達モデルを用い、老年期の発達課題について理解する。年齢差別について理解する。</p>	○	○	○
9	6		<p>第2章 老年期の理解と日常生活</p> <p>1 老年期の発達と成熟</p>	<p>・加齢に伴う心身の変化の特徴を、防衛力、予備力、適応力、回復力の面から考察し、理解する。</p> <p>・加齢による身体機能の変化と、それが日常生活に与える影響について理解する。加齢に伴う知的・認知機能の変化と日常生活への影響について理解する。老年期に影響を受けるきっかけとなる喪失体験、他者との感情的対立、病気などについて理解し、その対応について考察する。</p>	○	○	○
10	8		<p>2 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響</p> <p>3 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影</p> <p>4 高齢者の心理</p> <p>第3章 高齢者と健康</p> <p>1 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>2 保健・医療職との連携</p>	<p>・高齢者の心理の特徴について理解する。高齢者に接する場合の留意点について考察し、実践する。</p> <p>・高齢者に多い症状とその特徴について理解する。高齢者に接する場合の留意点について考察し、実践する。</p> <p>・高齢者が安心して健康的な生活を送るために必要な、他職種との連携について理解する。それぞれの職種が持つ専門性を理解し、より良い連携の仕方について考察する。</p>	○	○	○
11	8	第4編 認知症の理解	<p>第1章 認知症をとりまく環境</p> <p>1 認知症介護の歴史と理念</p> <p>2 認知症高齢者の現状と今後</p> <p>3 認知症に関する行政の方針と施策</p>	<p>・認知症の代表的な症状について理解し、対応の仕方や留意点について考察する。</p> <p>・我が国における認知症の歴史と認知症介護の変遷について理解する。今後の認知症介護のあり方について考察する。パーソンセンタードケアについて理解し、日本の認知症介護に及ぼした影響について考察する。</p> <p>・認知症高齢者の現状について理解する。</p> <p>・介護保険制度の創設と認知症対策の関連について理解する。地域における認知症高齢者の支援体制について理解する。認知症高齢者を支援する人材の育成とその必要性について理解する。</p>	○	○	○

			<p>第2章 認知症の基礎的理解</p> <p>1 認知症による症状</p> <p>2 認知症の診断</p> <p>3 認知症の主な病気の特徴</p> <p>4 若年性認知症</p> <p>5 認知症の薬物治療</p> <p>第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活</p> <p>1 認知症の人の特徴的な行動・心理</p> <p>2 認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響</p> <p>第4章 認知症と地域サポート</p> <p>1 地域におけるサポート体制</p> <p>2 家族への支援</p>	<p>・認知症とはどのような状態をいうのか、事例等をとおして理解する。認知症の症状と、鑑別が必要な症状について理解する。</p> <p>・認知症の早期発見の必要性について理解する。認知症の初期症状について理解し、対応の仕方や留意点について考察する。認知症の診断方法と治療について理解する。</p> <p>・認知症の種類(アルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)と、それぞれの特徴、症状、検査所見について理解する。</p> <p>・若年性認知症について理解する。若年性認知症の課題と、若年性認知症の介護の留意点について考察する。</p> <p>・我が国で主に用いられている認知症に対する薬物について理解する。</p> <p>・認知症が及ぼす心理的影響を理解する。BPSDについて理解する。認知症の人に特徴的な行動障害について理解する。認知症の人が持つ、内的世界について考察する。</p> <p>・認知症の人の特性を踏まえたアセスメントの必要性と方法を理解する。環境の変化と認知症について理解する。「なじみの人間関係」について考察する。</p> <p>・認知症の人の、地域におけるサポート体制について理解する。地域包括支援センターの役割と機能について理解する。地域密着型サービスについて理解する。認知症サポーターの役割と機能について理解する。</p> <p>・認知症の人の家族の抱える介護負担について考察する。事例を通して、介護負担の実際を理解する。家族介護力の評価の必要性と方法について理解する。</p>	○		
12	6	第5編 障害の理解	<p>第1章 障害の基礎的理解</p> <p>1 障害の概念</p> <p>2 障害福祉の基本理念</p> <p>第2章 生活機能障害の理解</p> <p>1 身体障害</p>	<p>・障害とはどのようなことか、障害に伴う様々な影響や個人差について理解する。介護従事者として、障害のある人を理解し、適切な支援をすることの必要性を理解する。</p> <p>・「障害」とは何か理解する。国際生活機能分類を理解し、国際障害分類との考え方の違いに気づく。「障害者」の概念について理解する。障害者基本法の成立過程と概要について理解する。</p> <p>・障害福祉に関する様々な用語(ノーマライゼーション、インクルージョン、リハビリテーション、エンパワメント・アプローチ)について理解する。障害者福祉に関する用語が作られた経緯と、実際にどのように使われているかを理解する。</p> <p>・身体障害とは何か理解する。身体障害の種類、身体障害者の数について理解する。視覚障害とは何か理解する。視覚障害者の現状と、視覚障害者の生活上の困難について考察する。聴覚障害、言語障害とは何か理解する。聴覚障害者、言語障害者の現状と、生活上の困難について考察する。肢体不自由とは何か理解する。肢体不自由となる原因(脊髄損傷、脳性麻痺、脳血管障害)について理解し、その原因による支援の留意点について考察する。肢体不自由者の現状と、生活上の困難について考察する。内部障害とは何か理解する。内部</p>	○	○	○
1	4				○	○	○

		<p>2 精神障害</p> <p>3 知的障害</p> <p>4 発達障害</p> <p>5 高次脳機能障害</p> <p>6 難病</p> <p>第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活</p> <p>1 障害のある人への心理</p> <p>2 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響</p>	<p>障害の現状と、生活上の困難について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害とは何か理解する。精神障害者の現状と、生活上の困難について理解する。</li> <li>・知的障害とは何か理解する。知的障害者の現状と、知的障害者の特徴に伴う生活上の困難について理解する。</li> <li>・発達障害とは何か理解する。発達障害者の現状と、発達障害の特徴に伴う生活上の困難について理解する。</li> <li>・高次脳機能障害とは何か理解する。高次脳機能障害の種類とその特徴について理解する。高次脳機能障害者への社会的支援について理解する。</li> <li>・難病とは何か理解する。難病患者の生活の現状、生活上の困難について理解する。</li> <li>・障害が及ぼす心理的影響について理解し、どのような支援が必要か考察する。ある子どもに心理について理解し、どのような支援が必要か考察する。障害の受容過程を事例等を通し、理解する。</li> <li>・障害者の自立生活の支援に必要な、全人的理解とは何か理解する。障害の程度に影響を及ぼす環境因子、個人因子とは何か理解する。</li> </ul>	○	○	○
2	6	<p>第4章 障害と地域生活支援</p> <p>1 地域におけるサポート体制</p> <p>2 家族への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害があることによる生活上の困難さ、また、それを解決する支援の特徴を、事例を通して理解する。生活上の困難さ、支援の特徴から地域生活支援におけるチームアプローチについて考察する。地域生活支援を行う機関や、相互の連携について理解する。</li> <li>・障害児(者)の家族の現状について理解する。障害児(者)の家族の障害受容の過程について理解し、必要な支援について考察する。事例等を通し、障害児(者)の家族の心情について考察する。</li> </ul>	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	福祉	年次	3	コース	福祉
科目名	社会福祉基礎	履修区分	選択Ⅱ	単位数	2
教科書(出版社)	社会福祉基礎(実教出版)				
副教材(出版社)					
教科の目標	<p>福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
科目の目標	<p>1 社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会構造の変容やライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのような影響を及ぼしているか考える力を身に付ける。</p> <p>2 現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解し、社会福祉の基本的な見方や考える力を身に付ける。</p> <p>3 対人援助のあり方や社会福祉制度の基礎的な理解のもと、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の向上を図る能力と態度を身に付ける。</p>				

1 学習の進め方と留意点

- ・講義および調べ学習、高齢者疑似体験、グループワークなど演習を取り入れながら学習をすすめます。
- ・人体について心理面と身体面の両面から学ぶとともにバイタルサインと関連させ日常生活における観察技術と結び付けて理解します。
- ・介護職員は人と密接に関わる職業です。信頼関係を築けるような身だしなみ、日常動作(挨拶、時間を守る、)等を心がけてください。
- ・生徒一人ひとりが考え、自分の意見を自らの言葉で発表し、意見交換ができるようになることを目指します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	基礎的な介護のあり方、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について理解し知識として身に付けている。 社会構造の変容及びライフスタイルの変化と社会福祉の理念について資料、情報を適切に活用し、調査研究の場での確にまとめる技術を身に付けている。	社会構造の変容、ライフスタイルの変化がどのように社会福祉の進展に影響し、そこから派生する諸課題の解決に向け、創意あふれる考えを導き出し表現する能力を身に付けている。	社会福祉に対する関心を高め、福祉社会が抱える課題に意欲を持って目を向けるとともに、社会福祉の向上を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容 ・定期考査の点数 ・実技テストの点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容と工夫 ・定期考査の点数 ・実技テストの点数 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容、期日の厳守 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	具体的内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
4	2 15	オリエンテーション 第1編 社会福祉の理念と意義 第1章 生活と福祉	1 職務の理解 (1) 介護職員初任者研修とは (2) 多様なサービスの理解	介護職がどのような環境で、どのような形でどのような仕事を行	○		

		<p>第2章 社会福祉の理念 第3章 人間の尊厳と福祉社会の創造</p> <p>第2編 社会福祉の歴史と福祉社会の課題 第1章 諸外国における社会福祉 第2章 日本における社会福祉</p>	<p>2 介護における尊厳の保持・自立支援 (1) 人権と尊厳を支える介護</p>	<p>うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。</p> <p>介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。</p>	○	○	○
5	21	<p>第5編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度 第1章 地域福祉の進展と地域の将来 第2章 多様な社会的支援制度 第3章 社会福祉の将来と福祉の担い手</p>	<p>(2) 自立に向けた介護</p> <p>3 介護の基本 (1) 介護職の役割、専門性とは職種との連携 (2) 介護職の職業倫理 (3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント (4) 介護職の安全</p>	<p>介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。介護を必要としている人の雇用制を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとることができる。</p>	○	○	○
6	27	<p>第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度 第1章 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 第2章 子ども家庭福祉 第3章 障害者福祉 第4章 高齢者福祉</p> <p>第4編 人間関係とコミュニケーション 第1章 コミュニケーションの基礎 第2章 援助における人間関係の形成 第3章 社会福祉援助活動の概要</p>	<p>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (1) 介護保険制度 (2) 医療との連携とリハビリテーション (3) 障害福祉制度およびその他制度</p> <p>5 介護におけるコミュニケーション技術 (1) 介護におけるコミュニケーション (2) 介護におけるチームのコミュニケーション</p>	<p>介護保険制度や障害者福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき行動例を理解している。</p>	○	○	○
7	16	<p>第5章 生活支援のための公的扶助 第6章 国民生活を支える社会保障制度</p>	<p>6 老化の理解 (1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常 (2) 高齢者と健康</p> <p>7 認知症の理解 (1) 認知症を取り巻く状況 (2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 (3) 認知症に伴うこころとからだ</p>	<p>加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。</p> <p>介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解している。</p>	○	○	○

			だ の変化と日常生活 (4) 家族への支援				
8	12		8 障害の理解 (1) 障害の基礎的理解 (2) 障害の医学的側面、生活障害 心理・行動の特徴、かかわり 支 援等の基礎的知識 (3) 家族の心理、かかわり支援の 理解	障害の概念と I C F、障害福祉の 基本的な考え方について理解し、 介護における基本的な考え方につ いて理解している。	○	○	○ ○
9	12		9 ころとからだのしくみと 生 活支援技術 I 基礎知識の学習 (1) 介護の基本的な考え方 (2) 介護に関するころのしく み の基礎的理解 (3) 介護に関するからだのしく みの基礎的理解	介護技術の根拠となる人体の構 造や機能に関する知識を習得し、 安全な介護サービスの提供方法 等を理解し、基礎的な一部または 全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び 自律を尊重し、持てる力を発揮し てもらいながらその人の在宅・地 域等での生活を支える介護技術 や知識を習得する。	○	○	○ ○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	理科	年次	3	コース	共通
科目名	化学	履修区分	選択	単位数	4 (2+②)
教科書 (出版社)	「化学 vol.1 理論編」「化学 vol.2 物質編」(東京書籍)				
副教材 (出版社)	「ニューアチーブ化学」(東京書籍)				
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				
	(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う				
	(1) ・化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	(2) ・化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) ・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

1. イメージをもたせて学習内容を理解させる。
2. 学習内容が定着するまで基礎問題を解く。
3. 学習内容が日常生活にどうつながっているかを伝えたり、考えさせたりする。
4. 学習内容を用いて観察や実験を行い、実際の現象とリンクさせる。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、化学に関する知識を総合的に身に付けている。 ・自然の事物・現象に関する観察、実験を行い、実験器具を正しく取り扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、様々な事象を科学的に探究する技術を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に課題を見だし、解決を目指して思考を深め、科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・自然の事物・現象について、化学に関する知識を基に、説明する力を養う。	・自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、化学的性質だけでなく、利用法について考えようとする態度を身に付けている。 ・命題について科学的な根拠を持って答える力や科学的な視点を持ち考える力を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の提出状況 ・確認テスト等の点数 ・振り返りシート等
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%~80%未満)、3 (40%~60%未満)、2 (30%~40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知識	思考	主体
4	4	2節 2族元素とその化合物 3節 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 1節 遷移元素とその化合物 2節 金属イオンの分離・確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活と関わりが深い無機物質とそのイオンについて観察、実験などを行い、規則性を見だし、さまざまな事物・現象の生じる要因や仕組みを科学的に考察できる。</li> <li>無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点で捉え、無機物質の工業的製造法などを科学的に考察できる。</li> <li>単体や無機化合物が人間生活にどのように関わっているかを科学的に考察できる。</li> <li>単体や無機化合物の性質や反応に関する観察、実験を行い、その基本的操作や記録の仕方を習得している。</li> <li>単体や無機化合物に関する観察、実験の過程や結果から導き出した自らの考えを的確に表現できる。</li> </ul>	○	○	○
		5章 無機物質と人間生活 1節 金属の利用 2節 合金 3節 セラミックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>単体や無機化合物の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則及び周期表との関係を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>単体や無機化合物について、化学工業に関連付けて理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	○	○	○
6	6	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 1節 有機化合物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化合物の特徴について観察、実験を行うとともに、それらを日常生活と関連付けて意欲的に探究しようとする。</li> <li>炭化水素の性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、その構造や性質、反応性について意欲的に探究しようとする。</li> <li>官能基を含む有機化合物の性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、その構造や性質、反応性について意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	○	○	○
		2章 炭化水素 1節 飽和炭化水素 2節 不飽和炭化水素 3節 有機化合物の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化合物と日常生活や社会との関連について関心をもち、人間生活との関わりについて意欲的に探究しようとする。</li> <li>有機化合物の性質や反応性において、無機化合物とは異なる特徴があることを見いだすことができる。</li> <li>炭化水素の性質や反応性が、炭素鎖の構造に特徴付けられることを見だし、構造異性体などを論理的に考察できる。</li> </ul>	○	○	○
7	6	3章 アルコールと関連化合物 1節 アルコールとエーテル 2節 アルデヒドとケトン 3節 カルボン酸とエステル 4節 油脂とセッケン	<ul style="list-style-type: none"> <li>官能基を含む有機化合物の性質や反応性が、その官能基に特徴付けられることを見だし、論理的に考察できる。</li> <li>酸素及び窒素を含む代表的な官能基の反応性と有機化合物の相互の関連について、観察、実験などを行い考察できる。</li> <li>有機化合物が人間生活にどのように関わっているかを科学的に考察できる。</li> <li>有機化合物の特徴や炭化水素に関する観察、実験を行い、その基本的操作及び記録の仕方を習得している。</li> </ul>	○	○	○
		4章 芳香族化合物 1節 芳香族炭化水素 2節 酸素を含む芳香族炭化水素 3節 窒素を含む芳香族炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化合物の特徴や炭化水素の観察、実験の過程や結果から導き出した自らの考えを的確に表現できる。</li> <li>官能基を含む有機化合物に関する観察、実験を行い、その基本的操作及び記録の仕方を習得している。</li> <li>有機化合物の特徴や反応性について、日常生活に関連付けて理解している。</li> <li>炭化水素の分類とその反応性との関係、構造異性体の関係等を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	○	○	○
9	6	5章 有機化合物と人間生活 1節 染料・医薬品 2節 合成洗剤 3節 食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>官能基を含む有機化合物を脂肪族化合物、芳香族化合物等を通して理解し、有機化合物相互の関連性についての知識を身に付けている。</li> <li>代表的な個々の官能基の性質に対する知識を身に付けている。</li> <li>油脂やセッケンなどの性質や反応性について、日常生活に関連付けている。</li> <li>有機化合物について、人間生活と関連付け、知識を身に付けている。</li> </ul>	○	○	○
10	8	6編 高分子化合物 1章 天然高分子化合物 1節 天然高分子化合物 2節 単糖類・二糖類 3節 多糖類	<ul style="list-style-type: none"> <li>高分子化合物の特徴について観察等を行うとともに、それらを日常生活と関連付けて意欲的に探究しようとする。</li> <li>天然高分子化合物の性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、その構造や性質、反応性について意欲的に探究しようとする。</li> <li>合成高分子化合物の性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、その構造や性質、反応性について意欲的に探究しようとする。</li> <li>高分子化合物と日常生活や社会との関連について関心をもち、人間生活と</li> </ul>	○	○	○
				○	○	○

11	8	4節 アミノ酸 5節 タンパク質 6節 核酸	<p>の関わりについて意欲的に探究しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高分子化合物の性質や反応性において、無機物質や有機化合物とは異なる特徴があることを見いだすことができる。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	6	2章 合成高分子化合物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然高分子化合物の構造・性質・反応性について、単量体の官能基のはたらきとの関連性を見だし、論理的に考察できる。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		1節 合成高分子化合物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合成高分子化合物の構造・性質・反応性について、単量体の官能基のはたらきとの関連性を見だし、論理的に考察できる。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		2節 合成繊維	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高分子化合物が人間生活にどのように関わっているかを考察できる。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		3節 プラスチック 4節 ゴム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然高分子化合物の性質や反応性に関する観察、実験を行い、その基本的操作及び記録の仕方を習得している。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1	4	3章 高分子化合物と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然高分子化合物の性質や反応性の観察、実験の過程や結果から導き出した自らの考えを的確に表現できる。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		1節 機能性高分子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合成高分子化合物に関する観察、実験を行い、その基本的操作及び記録の仕方を習得している。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		2節 プラスチックの再生処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合成高分子化合物に関する観察、実験の過程や結果から導き出した自らの考えを的確に表現できる。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		探究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高分子化合物の特徴や反応性について、生活に関連付けて理解している。</li> <li>・合成高分子化合物について、人間生活と関連付けて理解し、知識を身に付けている。</li> <li>・「化学」に関連した学習課題に対し、観察、実験、調査などを計画・実施して、得られた結果を総合的に探究、考察できる。</li> <li>・観察、実験、調査などを通して「化学」についての学習課題に対し、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	外国語	年次	3	コース	共通
科目名	英語探究	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	なし				
副教材(出版社)	英文法 リアクショントレーニング 基礎編(アルク) アクティブ・リーディング Basic (アルク)				
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。				
	(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
科目の目標	英語文法を例文により定着させ、日本語を見てそれを英語で言うアウトプット練習を繰り返すことで身の回りのことや思っていることを英語で話せるようにする。				

1 学習の進め方と留意点

(1) 英語を使って活動する場面で評価をします。英語が出来なくても努力する姿勢が高評価につながります。
(2) 英語を話そうとする姿勢を持って意欲的に授業に参加して下さい。
(3) ワークシートの提出と授業の取り組み、テストが評価の対象となります。活動にしっかり取り組んでください。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	テキストの例文の内容と文法構造を理解しているか。単語を適切な形で文中で使えるか。	学習した構文を使って、自分の思っていることを表現できるか。	積極的に発話し、表現しようとしているか。提出物を提出しているか。
評価資料	・提出されたワークシート ・テスト	・発表の仕方 ・会話活動の内容 ・ワークシートの内容	・授業の取り組み状況 ・提出物 ・会話活動の参加の度合い
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%以下)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を <u>1:1:1</u> で集約し、5 (80%以上)、4 (60%~80%未満)、3 (40%~60%未満)、2 (30%~40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	Unit1-5 否定文	主な学習活動 Listen and Repeat、日本語→英語に直す練習、Dictation	○	○	○
5	6	疑問文 受動態 修飾 前置詞、to do	否定文を用いて自分のことについて語る。疑問文を用いて相手に尋ねる。自分の身近なものについて説明する			
6	8	Unit6-10	主な学習活動 Listen and Repeat、日本語→英語に直す練習、Dictation	○	○	○
7	6	修飾 分詞 関係代名詞 間接疑問 付加疑問	名詞について修飾語句を付けたし、相手に説明する。質問文を間接疑問に書き換え、伝言ゲームを行う。関係代名詞を用いてクイズを作成する。			
8	4	Unit11-15 等位接続詞 従位接続詞	主な学習活動 Listen and Repeat、日本語→英語に直す練習、Dictation	○	○	○
9	8	if/ whether/ that 節 現在形 過去形	接続詞を用いて物語をつくり、物語を作る。if などを用いて自分の文章を作る。			
10	7	Unit16-20	主な学習活動 Listen and Repeat、日本語→英語に直す練習、Dictation	○	○	○
11	7	時制 現在完了形 過去完了形 助動詞 動名詞	完了形を用いて自分のことを語る英文を作る。助動詞のかかるたを作成する			
12	6	Unit21-27	主な学習活動 Listen and Repeat、日本語→英語に直す練習、Dictation	○	○	○
1	4	分詞構文 比較表現 知覚動詞 使役動詞	比較表現を使って文を作る練習を行う。知覚動詞、使役動詞の使い方について理解を深める。			

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	情報	年次	3	コース	共通
科目名	コンテンツの制作と発信	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	「 」( )				
副教材（出版社）	「 」				
教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を学び、学習活動を通して論理的かつ創造的な思考を身に付ける。				
	(1) 情報分野に関連する技術を身に付けるようにする。	(2) 課題を発見する力をみにつけ、課題解決に向け知識と技能を活用する力を養う。	(3) 職業人として必要な人間性を育むと共に協働的態度を養う。		
科目の目標	実践的な学習活動を通じてコンテンツの制作と発信に必要な資質・能力を育成する。				
	(1) コンテンツの制作と発信に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。	(2) コンテンツの制作と発信について体系的・系統的に理解すると共に関連技術を身に付けるようにする。	(3) コンテンツの創造を目指して自ら学び、主体的・協働的に取り組む態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) コンテンツの作成時は、タブレット端末やスマートフォンを使用した作業が多くなります。授業内容と関係のない動画視聴等が無いように授業に挑んでください。進捗状況の確認・報告を行います。
- (2) グループ制作を行うことが多くなります。誰かに任せきりになるのではなくそれぞれが協力し合って作業を進めて下さい。
- (3) コンテンツ制作時には、機器（パソコン・カメラ・ミキサー・マイク等）を持参しても構いませんが、個人の責任で管理すること（機器の損傷・故障・盗難等があった場合でも、学校では一切責任を負いません。）

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画書・タイムテーブルを仕上げる能力</li> <li>編集アプリの操作能力</li> <li>画像の加工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作したコンテンツ内容</li> <li>表現方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度（私語・授業に関係のない作業など）</li> <li>グループ制作での仕事内容（協働姿勢）</li> <li>企画案</li> </ul>
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画書</li> <li>静止画・動画作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>静止画</li> <li>動画</li> <li>音声</li> <li>企画書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ評価</li> <li>企画書</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満) の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	コンテンツ制作の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>何を表現し何を伝えるか</li> <li>表現に適したコンテンツとは何か？</li> <li>知的財産権について</li> </ul>	○	○	○
5	6	画像の加工	編集アプリを使って静止画を加工する。 POP 作り	○	○	○
6	15	動画コンテンツ制作 1 (人気コンテンツを真似してみよう)	企画会議（表現したい事を話し合う） 企画書を作る（表現したい事的设计図を作る） 撮影環境を整える（必要な道具の準備） 動画の撮影 動画の編集 動画に音を付ける	○	○	○
7				○	○	○

8	8	音声コンテンツ	声だけ（トーク）だけで表現するコンテンツ 企画会議（表現したい事を話し合う） 企画書を作る（表現したい事的设计図を作る） コンテンツの作成（録音） コンテンツの編集	○	○	○
9						
10	23	動画コンテンツ制作2 （オリジナルコンテンツ を制作してみよう）	企画会議（表現したい事を話し合う） 企画書を作る（表現したい事的设计図を作る） 撮影環境を整える（必要な道具の準備） 動画の撮影 動画の編集 動画に音を付ける	○	○	○
11						
12						
1	3	メディア論	個人で発信できることのメリットとデメリット 「炎上」は、なぜ起きるのかを考える。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育	年次	3	コース	スポーツ&ヘルス
科目名	スポーツVI	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)					
副教材(出版社)					
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを旨とする。				
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
科目の目標	地域の特色を活かしたスポーツ、地域で学べるオリンピック種目、パラリンピック種目、新たに生み出されたニュースポーツなど様々な競技を経験し、生涯に渡ってスポーツに親しむ資質と能力を養う。				
	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 男女共修で実施する。 (2) 地域のスポーツ施設と連携しながら、オリンピック種目やパラリンピック種目、ニュースポーツなど様々なスポーツを経験し、スポーツに親しむ資質やコミュニケーション力・企画力を身に付けていく。 (3) 校外活動を積極的に行い、体を動かすという爽快感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びを学び、自分のライフスタイルや興味に応じて、楽しめる活動のできる態度を育てる。 (4) 健康・安全に留意して活動する。
--

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	知識 ・種目の良さや活動の注意点などを言ったり書き出したりしている。 ・活動を通じて運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しめるためのルールの調整について、学習した具体例を挙げている 技能 ・活動環境に配慮し、新しく学ぶ運動技能について基礎基本を習得することができている。	・課題解決のための過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。 ・自己や仲間の課題を解決するための活動の計画を立てている。 ・活動の場面で、自己や仲間の危険を回避するための仕方を提案している。 ・自己に適した学習成果を踏まえ、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯に渡って楽しむための関わり方を身に付けている。	・学習に対して意欲的、主体的に取り組もうとしている。 ・準備、後片付けなど積極的に行っているか。 ・互いの良さや違いを認め合い、協力しようとしているか ・役割など責任を持って主体的に取り組んでいるか。 ・危険を予測しながら回避行動を取るなど健康・安全に配慮し、行動できているか。
評価資料	・活動状況の観察 ・各活動毎のレポート記述内容	・活動状況の観察 ・各活動毎のレポート記述内容	・活動状況の観察 ・健康・安全を意識した取り組み方 ・自主的・計画的な取り組み方 ・仲間との関わりとその協力する態度
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(79%~40%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(79%~40%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(79%~40%) C(40%未満)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(80%未満~60%)、3(60%未満~40%)、2(40%未満~30%)、1(30%未満)の評定をつける。また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	6	・オリエンテーション ・ゲートボール	・1年間のプログラムについて理解する。 ・生涯スポーツとは何か理解する。 ・ゲートボールのルールや基本技術を学び、仲間と協力してゲームができるようにする。	○	○	○
5	8	・ゲートボール ・ゴルフ	・ゲートボールのルールや基本技術を学び、仲間と協力してゲームができるようにする。 ・ゴルフの基礎打ちを学び、基本技術を身につける。 ・レポート作成	○	○	○
6	8	・ゴルフ ・登山	・ゴルフの基礎打ちを学び、基本技術を身につける。 ・ゴルフのラウンドを体験し、マナーやルールを学ぶ。 ・登山の知識や技術を身につける。 ・レポート作成	○	○	○
7	6	・溪流釣り ・ラフティング	・地域の特性を活かした野外体験を通じて自然に親しみ、地域探究につなげる。 ・溪流釣りラフティングの方法や注意点を学ぶ ・レポート作成	○	○	○
8	6	・野外炊飯	・ライターやマッチ以外で火を起こす方法を身につける。 ・テントの設置方法や屋外での調理技術を身につける。 ・野外活動のルール、防災知識を身につける。 ・レポート作成	○	○	○
9	14	・パークゴルフ ・乗馬体験	・幕別町発祥のスポーツについて、ルールやマナーを学び、仲間と協力してスポーツを楽しむ。 ・ウマの特性や乗馬の方法や注意点等を学ぶ。	○	○	○
10	14	・ボルダリング ・カーリング	・ボルダリングを経験し、種目ルールを学び、楽しさに触れる。 ・オリンピック種目であるカーリングを体験し、楽しさや基礎技術を学び、ミニゲームを実践する。	○	○	○
11	3	・ボルダリング ・トランポリン ・ボッチャ	・ボルダリング、トランポリン、ボッチャの基礎技術を学び、レベルに合わせて技能を高める。	○	○	○
12	3	・カーリング ・テーブルマナー ・振り返り・レポート作成	・カーリングの知識や技術を習得し、仲間と協力してゲームができるようにする。 ・食事のマナーやナイフ、フォーク、ナプキン等の食卓作法を学び、ビジネスマナーを身につける。 ・年間まとめレポートの作成・発表	○	○	○
1	2	・クロスカントリスキー ・振り返り・レポート作成	・スキー技能を習得する。 ・年間まとめレポートの作成・発表	○	○	○
2						
3						

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	家庭	年次	2	コース	福祉・ビジネス・スポル
科目名	保育基礎	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	「保育基礎」(実教出版)				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。				
	(1)保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	(2)子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	(3)子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

<p>(1)座学においては、発達の特徴や保育理論について講義形式での学習を行う。</p> <p>(2)年間4回の保育実習に向けて、保育計画を作成・実践する。</p> <p>(3)実習においては、歌遊びを中心として、調理実習・被服実習・看護実習などを行う。</p> <p>(4)月に1回程度、手遊び・家庭看護技術などの実技テストを行う。</p> <p>(5)テレビや新聞などのニュース、特に家族・保育・福祉に関わるニュースに関心を持つこと。</p> <p>(6)土日の町内行事に参加することがあります。</p>
--

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	保育を担う職業人として必要な基礎的知識(子どもの発達の特性や発達過程、保育など)と技術を総合的に身に付けている。	子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、子ども一人一人の発達に適した保育環境を整える上での課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、工夫し創造する能力を身に付けている。	保育の意義や方法に関心を持ち、その質の充実に向上を目指して主体的かつ協働的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>各課題の記述内容</li> <li>定期考査の点数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>各課題の記述内容と工夫</li> <li>定期考査の点数</li> <li>実技テストの点数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>各課題の記述内容</li> <li>実習時の身だしなみ・必要物品の用意</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点			
				知	思	態	
4	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容や学習方法・評価についての説明</li> <li>○SDGsの取り組みについての説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育基礎の学習活動を知る。</li> <li>○保育における持続可能な社会を目指す視点を持つことの大切さを知る。</li> </ul>			○ ○
5	8	1章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育の意義</li> <li>○保育者の役割</li> <li>○一人ひとりに合わせた指導</li> <li>○家庭での保育</li> <li>○幼児教育・保育の場</li> <li>○子どもが育つ環境の変化と課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育の意義と方法、保育の環境の特徴と役割について理解する。</li> <li>○子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。</li> <li>○子どもの保育の方法や保育の環境について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。</li> </ul>	○		○  ○
6		保育実習にむけて	<ul style="list-style-type: none"> <li>【音楽】</li> <li>○ご挨拶の歌</li> <li>○おはよう(朝のうた)</li> <li>○月の歌・月の手遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十分な声量がある。</li> <li>○豊かな表情で表現されている。</li> <li>○体の動きがはっきりとし、正確である。</li> </ul>	○ ○ ○	○ ○ ○	

			<b>【被服】</b> ○名札作り <b>【実践】</b> ○保育実習	○滑舌がよく言葉を聞き取りやすい。 ○歌詞を正しく覚えている。 ○見やすく丈夫な実習用名札を丁寧に作成している。	○	○	
7 8	10	2章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性 2 子どものからだの発達 3 子どもの心の発達	○発達と保育 ○発達の共通性と個別性 ○発育・発達の評価 ○身体的・生理的特徴 ○社会・情緒的な発達 ○知的発達 ○言葉の発達	○生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達の特性と心身の様々な機能の発達を理解する。 ○乳幼児期の子どもの健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ○子どもの発達について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。	○		○
9		保育実習にむけて	<b>【言語】</b> ○絵本の選択 ○読み聞かせ <b>【実践】</b> ○保育実習	○安全に配慮するとともに子どもの発達を促す工夫がされた実習計画書を作成し、実践できる。 ○適切な身だしなみを整え、安全に配慮しつつ意欲的な姿勢で取り組む。 ○実習を振り返り、次回への課題を見つける。 ○日誌の提出期日が守られている。		○	○
10	5	3章 子どもの生活 1 子どもの生活と養護 2 生活習慣の形成 3 健康管理と事故防止	○生活と養護 ○栄養と食事 ○衣生活 ○基本的・社会的生活習慣 ○子どもの健康管理 ○事故の防止と応急処置 <b>【看護】</b> 沐浴・清拭、おむつ交換・着替え <b>【調理】</b> 離乳食・間食	○子どもの発達を考慮した健康管理について理解する。 ○保育の役割を理解し、より高い援助技術を身につける。 ○子どもの生活と適切な養護について、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。	○	○	○
11		○保育実習にむけて ○赤ちゃんインタビューに向けて	<b>【実践】</b> 保育実習 <b>【実践】</b> 赤ちゃんインタビュー 「ばぶばぶの費」	○安全に配慮するとともに子どもの発達を促す工夫がされた実習計画書を作成し、実践できる。 ○適切な身だしなみを整え、安全に配慮しつつ意欲的な姿勢で取り組む。 ○日誌の提出期日が守られている。 ○子育て支援のあり方について思考を深め、課題の解決方法を模索している。		○	○
12	5	4章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場 2 子どもの遊びと表現活動	○子どもの文化 ○遊びと発達 ○遊びと表現活動 <b>【実践】</b> 保育所総練習見学	○丁寧に工作している。 ○対象者の個性に合わせた臨機応変な対応を実践する。 ○子どもの文化、遊びと表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ○子どもの文化について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○
1 (2) (3)	10	5章 子どもの福祉 1 子ども観 2 子どもの福祉 3 子育て支援	○子ども観の変遷 ○子どもをとりまく課題と対策 ○子育て支援からパートナーシップへ ○社会的養護	○児童観の変遷や児童福祉の理念と制度について理解する。 ○子どもの福祉について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。	○		○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	数学	年次	3	コース	共通
科目名	数学探究	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	なし				
副教材(出版社)	大学入試短期集中ゼミ 基礎からの数学 I + A Express (実教出版)				
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。				
	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。		
科目の目標	高校数学を振り返る学習を行うことで、進学に向けた学力向上を目指すと共に、数学を通して生徒の資質・能力を次のとおり育成する。				
	(1) 振り返り学習を通して基礎基本の定着を図ると共に、発展的な問題にも取り組む力(能力)を養う。	(2) 既習事項を活用して様々な事象を数学的に捉え、多角的・多面的に考察し、表現する力を養う。	(3) 振り返り学習を通して、復習の大切さを感じ、自ら学びなおす姿勢(資質)を養う。		

1 学習の進め方と留意点

数学的な思考能力は、社会でも重要視されている能力の1つです。上級学校に進学するにあたって、更に専門的な知識を学ぶのですから、高校数学の基本的な部分を理解し、今後の専門的学習に役立ててください。  
また、1学年時の数学 I + A を復習します。1学年時の時よりも理解ができるはずですが、この授業を通して、復習の良さや大切さを理解し、将来自ら勉強しなおす姿勢を身に付けていきましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	基礎基本の問題を解くことができる。	応用問題について理解しようとし、グループ活動等を活用して解くことができる。	基礎基本の問題にきちんと取り組むことができる。 応用問題へも積極的に取り組み、解こうとする。
評価資料	・ 考査 ・ 各種課題の内容	・ 考査 ・ ワークシート等の記述内容 ・ グループ活動等の発表内容	・ 各種課題の提出状況 ・ グループ活動への参加状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%~80%未満)、3 (40%~60%未満)、2 (30%~40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整式の計算や因数分解の基本を振り返る</li> <li>・ 根号の計算の基本を振り返る</li> <li>・ 応用問題や発展問題に取り組む</li> <li>・ 演繹的な思考能力を身に付ける</li> </ul>	○		○
		1 公式による展開				
		2 式の計算				
		3 因数分解				
		4 おきかえによる因数分解				
		5 無理数の計算				
		6 $x+y=○$ 、 $xy=□$ 対称式の計算				
		7 二重根号のはずし方				
		8 無理数の整数部分と小数部分				
		9 3元連立方程式				
10 絶対値記号とそのはずし方						

5	6	2次関数 11 関数のグラフ 12 少し複雑な2次関数のグラフ 13 2次関数のグラフの平行移動、対称移動 14 2次関数の決定(1) 15 2次関数の決定(2) 16 2次関数の最大・最小 17 場合分けが必要な最大・最小(定義域が動く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次関数の基本的性質を理解する</li> <li>2次関数の最大値、最小値の問題について取り組み、理解する</li> <li>2次関数の決定の問題に取り組み、理解する</li> <li>2次方程式に関する問題に取り組み、理解する</li> <li>2次不等式に関する問題に取り組み、理解する</li> <li>応用問題や発展問題に組み込む</li> </ul>	○		○
6	8	18 場合分けが必要な最大・最小(グラフが動く) 19 2次関数のグラフと判別式 20 すべてのxで $ax^2+bx+c>0$ が成り立つ条件 21 2次方程式( $ax^2+2b'x+c=0$ )の解 22 2次方程式と判別式 23 2次方程式の共通な解 24 1次不等式 25 2次不等式の解法 26 連立不等式 27 場合分けが必要な2次不等式 28 不等式の整数解に個数 29 2次方程式の解とグラフ 30 絶対値を含む方程式・不等式			○	○
7	6	集合と論理 31 不等式で表された集合の関係 32 不等式で表された集合の包含関係 33 集合の要素の個数 34 「かつ」と「または」、「すべて」と「ある」 35 必要条件と十分条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合と論理における専門用語を正しく理解する</li> <li>命題を解く活動の中で、論理的に説明ができるようになる</li> <li>応用問題や発展問題に組み込む</li> </ul>	○		○
8	4	図形と計量 36 三角比の定義 37 三角比の拡張(90°以上の三角比) 38 三角比の相互関係 39 $\sin\theta + \cos\theta$ と $\sin\theta \cos\theta$	<ul style="list-style-type: none"> <li>直角三角形と三角比のつながりについて理解する</li> <li>三角比の定義について理解する</li> <li>三角比の拡張について理解する</li> <li>三角比の相互関係について理解し、解けるようになる</li> <li>三角比の性質について理解する</li> <li>正弦定理や余弦定理を用いて、辺や角を求めることができる</li> <li>三角形の面積を、三角比やヘロンの公式を用いて解くことができる</li> <li>三角比の考え方を空間図形の計量に役立てる</li> <li>応用問題や発展問題に組み込む</li> </ul>	○		○
9	8	40 三角方程式・不等式 41 $\sin\theta$ 、 $\cos\theta$ で表された関数 42 正弦定理 43 余弦定理 44 三角形の面積 45 $\triangle ABC$ で $\angle A$ の2等分線の長さ/対辺の比 46 円に内接する四角形 47 空間図形の考え方			○	○
10	7	データの分析 48 度数分布と代表値 49 箱ひげ図 50 平均値・分散と標準偏差 51 相関係数 52 仮説検定の考え方 場合の数と確率 53 和の法則・積の法則 54 順列と組合せ 55 いろいろな順列 56 円順列 57 重複順列 58 同じものを含む順列 59 いろいろな組合せ 60 組の区別のつかない組分け	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの分析における専門用語を正しく理解する</li> <li>箱ひげ図や相関図を正しく読み取れるようになる</li> <li>応用問題や発展問題に組み込む</li> <li>場合の数の基本性質を理解する</li> <li>置き換え等により、演繹的に様々な問題に取り組む</li> <li>帰納的に考えることで、パターン性を見抜き応用問題の考え方を理解する</li> <li>応用問題や発展問題に組み込む</li> </ul>	○		○

11	7	61 組合せの図形への応用 62 確率の考え方 63 確率の加法定理 (1) (排反である場合) 64 確率の加法定理 (2) (排反でない場合) 65 順列と確率 66 組合せと確率 67 余事象の確率 68 続けて起こる場合の確率 69 さいころの確率 70 反復試行の確率 71 条件つき確率 72 ある事象が起こった原因の確率 73 期待値	<ul style="list-style-type: none"> <li>確率の考え方を理解する</li> <li>置き換え等により、演繹的に様々な問題に取り組む</li> <li>帰納的に考えることで、パターン性を見抜き応用問題の考え方を理解する</li> <li>応用問題や発展問題に取り組む</li> </ul>	○	○	○
12	6	図形の性質 74 角の2等分線と中線定理 75 円周角、接弦定理、円に内接する四角形 76 内心と外心 77 方べきの定理 78 円と接線、2円の関係 79 メネラウスの定理 80 チェバの定理	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の性質に関する各定理を理解する</li> <li>各定理を使って論理的に問題が解けるようになる</li> <li>応用問題や発展問題に取り組む</li> </ul>	○	○	○
1	4	数学と人間の活動 81 最大公約数・最小公倍数 82 余りによる整数の分類 83 互除法 84 不定方程式 $ax+by=c$ の解 85 不定方程式 $xy+px+qy=r$ の整数解 86 p進法	<ul style="list-style-type: none"> <li>最大公約数・最小公倍数の性質について理解する</li> <li>ユークリッドの互除法を理解する</li> <li>不定方程式を理解する</li> <li>p進法について理解する</li> <li>応用問題や発展問題に取り組む</li> </ul>	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	国語	年次	3	コース	共通
科目名	国語探究	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	なし				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	(2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	(3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
科目の目標	課題探究学習を通して、自分の考えを適切に表現し効果的に話すことができる資質・能力と伝統的な言語文化に対する関心を深める態度を育む。				
	(1) 課題に即して必要な情報を収集し、文学史に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 課題を論理的にまとめる力を伸ばし、自分の考えを適切に表現し効果的に話す力を養う。	(3) 探究する課題に対して適切な目標を設定して取り組むことで、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 学校図書館の資料やタブレット等を使用し、自身が設定した課題について主体的に学習します。調べた内容をスライドにまとめ、プレゼンテーションを行います。お互いの発表を評価し合い「伝え合う力」の向上を目指します。
- (2) 「話すこと・聞くこと」「自分の考えを適切に表現し効果的に話すこと」「伝統的な言語文化を理解すること」がバランスよく伸ばせるような活動を目指します。
- (3) 評価は主体的な授業への取り組み、プレゼンテーション、他者の発表に対する評価などを総合的に判断します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究する課題のテーマや目的に応じて、情報を収集することができる。</li> <li>効果的に伝えることができるように工夫してスライドを作成することができる。</li> <li>他者の発表に内容を的確に理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えが適切に伝わるように効果的に話すことができる。</li> <li>話し言葉と書き言葉の特徴や役割を踏まえわかりやすく伝えることができる。</li> <li>他者の発表に対して適切に評価することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究する課題に対して主体的、創造的に取り組むことができる。</li> <li>他者の発表に真摯に耳を傾け、批評することができる。</li> </ul>
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシートの記述内容</li> <li>スライド</li> <li>評価票の記述内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>評価票の記述内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシートの記述内容</li> <li>スライド</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>評価票の記述内容</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%～79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%～80%未満)、3(40%～60%未満)、2(30%～40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4 5 6	18	・近現代の文学についての課題探究学習①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定</li> <li>・学校図書館やタブレット等を使用した調べ物学習。 (メディアリテラシーの向上)</li> <li>・調べた内容をもとにスライド作成。 (言葉選びの工夫、分かりやすい表現)</li> <li>・プレゼンテーション (伝わる話し方、表現方法)</li> <li>・相互評価</li> </ul>	○	○	○
7 8 9	18	・日本古典文学についての課題探究学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定</li> <li>・学校図書館やタブレット等を使用した調べ物学習。 (メディアリテラシーの向上)</li> <li>・調べた内容をもとにスライド作成。 (言葉選びの工夫、分かりやすい表現)</li> <li>・プレゼンテーション (伝わる話し方、表現方法)</li> <li>・相互評価</li> </ul>	○	○	○
10 11 12	20	・近現代の文学についての課題探究学習②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定</li> <li>・学校図書館やタブレット等を使用した調べ物学習。 (メディアリテラシーの向上)</li> <li>・調べた内容をもとにスライド作成。 (言葉選びの工夫、分かりやすい表現)</li> <li>・プレゼンテーション (伝わる話し方、表現方法)</li> <li>・相互評価</li> </ul>	○	○	○
1 2 3	4	・中国古典文学についての課題探究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定</li> <li>・学校図書館やタブレット等を使用した調べ物学習。 (メディアリテラシーの向上)</li> <li>・調べた内容をもとにスライド作成。 (言葉選びの工夫、分かりやすい表現)</li> <li>・プレゼンテーション (伝わる話し方、表現方法)</li> <li>・相互評価</li> </ul>	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	外国語	年次	3	コース	共通
科目名	異文化理解	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	なし				
準教科書(出版社)	なし				
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。				
	(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
科目の目標	英語を通じて世界の文化を学び、諸外国への興味・関心を高める。				

1 学習の進め方と留意点

- (1) 英語を使って活動する場面があります。英語が出来なくても努力する姿勢が高評価につながります。  
 (2) 海外の文化に興味を持ち、知ろうとする姿勢を持って意欲的に授業に参加して下さい。  
 (3) レポートの提出とテスト、授業の取り組みが評価の対象となります。活動にしっかり取り組んでください。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	場面に即した例文や表現を聞き、話すことができるか。	場面や状況に適した表現を使うことができるか。	積極的に発話し、表現しようとしているか。
評価資料	・提出されたワークシート ・テスト	・発表の仕方 ・会話活動の内容 ・ワークシートの内容	・授業の取り組み状況 ・提出物 ・会話活動の参加の度合い
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%以下)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	世界地図から学ぶ	自分の興味ある国を選び、その国についてプレゼンテーション資料を作る。英訳し、ALTに発表する。	○	○	○
5	6	日本人の若者が海外に出稼ぎへ増加の裏側にある労働問題	NHK クローズアップ現代の資料を読み、労働問題について学ぶ。自分が就職するときに日本はどうなっているか考える。ディスカッションとレポート	○	○	○
6	8	青年海外協力隊について	you tube で青年海外協力隊の仕事について学ぶ レポートにまとめる	○	○	○
7	6	JICA 国際協力出前講座	元青年海外協力隊の方を招き、講演をいただく。派遣国について事前に理解を深める	○	○	○
8	4	オーパーツーリズムについて	北海道で起きているインバウンドが引き起こす問題と北海道経済における恩恵について学ぶ	○	○	○
9	8	アメリカ大統領選挙について 映画“スーパーチューズデイ”	ALTの先生にアメリカ大統領選についての話を聞く。さらに、現大統領が与える日本への影響について調べる。	○	○	○
10	7	JICA 北海道センター訪問プログラム	JICA 訪問の下準備として JICA について調べ、実際に訪問したレポートを作成する	○	○	○
11	7	世界の料理について	世界の料理について調理方法を調べ発表する	○	○	○
12	6	911について	911について学ぶ。テーマにした映画を鑑賞する	○	○	○
1	4	異文化理解のまとめ	一年間学んだことをプレゼンテーションする。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	芸術（音楽）	年次	3	コース	共通
科目名	演奏に親しむ	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	なし				
副教材（出版社）	なし				
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会に中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成する。				
	(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情をはぐくむとともに、完成を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。		
科目の目標	演奏に関する活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、演奏に関する幅広い資質・能力を次のとおり育成する。				
	(1) 演奏における多様性について理解を深めるとともに、創造的に音楽表現するために必要な技術を身に付けるようにする。	(2) 豊かな表現について考え、表現意図を持ち個性豊かに音楽表現を創意工夫する。	(3) 主体的に活動に取り組み、豊かな表現の追求や、演奏活動によって生活や社会を明るく豊かなものにする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業について

- ・歌唱及び器楽は、基本的に1年間通して取り組みます。活動が長期間にわたりますので、定期的に目標を決め、充実した練習ができるようにしましょう。また、振り返りの活動を通して自身の能力や成長を把握します。それも踏まえ目標設定を行いましょう。
- ・練習では、自分で練習方法等を考えたり工夫したりすることが大切になってきます。分からないこと等は質問する等、積極的に取り組みましょう。
- ・楽譜やプリントを配布します。紛失しないよう、ファイル等にまとめてください。

(2) 発表会について

- ・年度の最後に、グループごとに発表会を行います。

(3) 新学習指導要領について

- ・教科・科目の目標及び学習内容については、新学習指導要領を適用しています。
- ・知識技能・思考判断表現・主体的に学習に取り組む態度の3観点で評価します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価資料	・筆記テスト ・実技テスト	・振り返りシート ・発表ワークシート ・鑑賞	・活動記録 ・振り返りシート
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%～80%未満)、3(40%～60%未満)、2(30%～40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	知	思	態
4	4	ピアノ（キーボード）① [ソロ・連弾]	楽器の特徴や奏法を理解する。 基本的な奏法や豊かな表現のために必要な演奏技術を身に付ける。 楽曲を理解し、表現意図を持つ。	○	○	○
5	6	ギター① [弾き語り]	楽器の特徴や奏法を理解する。 基本的な奏法や豊かな表現のために必要な演奏技術を身に付ける。 楽曲を理解し、表現意図を持つ。	○	○	○
6	8	合唱①	自他のパートの音楽的な役割を理解し、全体の調和を意識する。 基本的な奏法や豊かな表現のために必要な演奏技術を身に付ける。 楽曲を理解し、表現意図を持つ。	○	○	○
7	6	リコーダー① [アンサンブル]	自他のパートの音楽的な役割を理解し、全体の調和を意識する。 基本的な奏法や豊かな表現のために必要な演奏技術を身に付ける。 楽曲を理解し、表現意図を持つ。	○	○	○
8	4					
9	8	ピアノ（キーボード）② [ソロ・連弾]	楽曲の理解を深め、豊かな表現意図を持つ。 知識・技能を生かし、自己のイメージを持って、個性豊かに表現を創意工夫する。	○	○	○
10	7	ギター② [弾き語り]	楽曲の理解を深め、豊かな表現意図を持つ。 知識・技能を生かし、自己のイメージを持って、個性豊かに表現を創意工夫する。	○	○	○
11	7	合唱②	楽曲の理解を深め、豊かな表現意図を持つ。 知識・技能を生かし、自己のイメージを持って、個性豊かに表現を創意工夫する。	○	○	○
12	6	リコーダー② [アンサンブル]	楽曲の理解を深め、豊かな表現意図を持つ。 知識・技能を生かし、自己のイメージを持って、個性豊かに表現を創意工夫する。	○	○	○
1	4	鑑賞	楽曲の特徴や演奏者の表現意図を理解し、根拠（音楽を形づくっている要素や具体的な表現技法等）を持って良さや美しさを自ら味わって聴く。	○	○	
2						
3						

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	家庭	年次	2	コース	福祉・ビジネス・スポベル
科目名	生活と福祉	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	「生活と福祉」(実教出版)				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。				
	(1)高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	(2)高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として、合理的かつ創造的に解決する力を養う。	(3)家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1)ノートを用意して下さい。適宜プリントを配布し授業を進めます。
(2)板書以外にも自分自身で大事だと思うことはどんどんメモして下さい。たくさんの情報を得るために、早く字を書くこと、頭の中で内容をまとめながら書き記す訓練も必要です。
(3)授業は皆さんが主役です。自分の意見をしっかり持ち、仲間の意見には耳を傾け、主体的に取り組みましょう。 介護実習ではジャージを着用します。安全と衛生(身だしなみ、声かけ、整理整頓)に気をつけ、仲間と協力して気持ちよく行えるようにしましょう。
(4)テレビや新聞などのニュースに関心を持つこと。他教科での学習や、様々な生活体験で身につけた知識や技術を使って授業を進めます。家庭科と関係のないできごとはありません。ニュースに関心を持ちましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識と技術を身に付けている。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容と工夫 ・定期考査の点数 ・実技テストの点数 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各課題の記述内容 ・実習時の身だしなみ・必要物品の用意
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点			
				知	思	態	
4		1 健康と生活 ア 健康の概念 イ ライフステージと健康管理 ウ 家庭看護の基礎	○健康の概念 ○ライフステージごとの健康管理と課題 ○健康と生活 ☆フレイル予防教室参加(本町・札内)	○健康の概念について、身体的、精神的、社会的な面から全人的に捉えることができる。 ○自立した生活を送るための健康観 管理と介護予防の重要性を理解している。 ○疾病予防や早期発見の重要性を理解している。 ○高齢社会の進展、生活様式の変化などに伴う健康をめぐる諸課題について考察できる。 ○家庭看護の基礎的技術と応急手当の要点を身に付け、工夫できる。	○	○	○
5				○	○	○	

6	2	高齢者の自立生活支援と介護		○加齢と病気・諸症状との関係について理解している。	○		
7	ア	高齢者の心身の特徴	○加齢に伴う心身の変化	○高齢者の自己決定に基づく自立生活について理解できる。	○		
8	イ	人間の尊厳と自立生活支援の考え方	○自立生活とは	○認知症について理解し適切な対応ができる。	○	○	○
	ウ	高齢者介護の基礎	○自立生活を送るための課題	○自立生活を送るための課題を発見し、解決に向けて考察できる。		○	
			○高齢者の自立生活支援と介護	○高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		○	○
			☆スマホ教室(7月中旬)	○高齢者の生活を支える地域の役割について考えることができる。		○	○
			☆障害者福祉事業所との交流				
9	3	高齢者福祉の制度とサービス		○法規と制度の概要について理解している。	○		
10	ア	人口減少社会と社会福祉	○高齢者福祉の法規と制度	○高齢期の長期化に伴う課題や、家族・地域の変化とそれに対応する社会福祉の現状と課題について考えることができる。		○	
11	イ	高齢者福祉の法規と制度	○高齢化の特徴と人口減少社会	○日本の高齢化の特徴と人口減少社会の課題を発見し、その解決に向けて考察できる。		○	○
	ウ	保健・医療・福祉サービス	○高齢者福祉の制度とサービス	○高齢者の生活の質の向上と自立支援に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		○	○
			☆フレイル予防教室企画(本町・札内)	○高齢者福祉の充実のための地域の役割について考えることができる。		○	
				○自治体における制度やサービスについて調べる。	○		○
12	4	生活支援サービスと介護の実習		○家事援助や基本的な介護技術を身に付けている。	○		○
1	ア	生活支援サービスと介護の実習	○生活支援サービスと介護の実習	○介護の実習に関する課題を発見し、その解決を受けて考察し、工夫できる。	○	○	○
(2)	イ	介護の実習	○レクリエーションの目的	○高齢者に関わる消費者問題とその対策について理解する。	○		
(3)	ウ	レクリエーションの実習	○レクリエーションのプログラム	○レクリエーションの意義を理解する。	○		
			☆出張美容サービス	○身体的・精神的機能を回復させ、社会性を取り戻すためのレクリエーションを具体的に考えることができる。		○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	総合	年次	3	コース	共通
科目名	キャリアアップ	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	なし				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	総合的で教科横断的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力を育成する。				
科目の目標	キャリア学習を通じて、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力をつぎのとおり育成する。 (1)自己の能力・適性を理解し、その向上にむけて努力する。 (2)職業や社会についての理解を深め、自らの人生を主体的に切り拓く力の基礎を身に付ける。 (3)他者との協働を通じて、よりよい社会を実現しようとする態度を育む。				

1 学習の進め方と留意点

<p>幸せな大人として生きていくためには、急速に変化する時代に対応できる力を身に付けることが必要です。今ある職業が20年後、30年後にもあるとは限りませんし、機械やAIでもできる仕事には、それらよりも安い賃金しか支払われなくなるでしょう。</p> <p>自分の強みを育てそれを社会で生かしていく方法を考える。人生を通じて粘り強く道を切り拓くために進化し続ける。他者との協働を通じて愛し愛される人になり、ともによりよい社会を作っていく。校訓「考拓愛」に込められた思いを、自らのものにするための科目です。主体的、積極的な取り組みを期待します。</p>
---

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア学習に関する知識及び技能を身に付け、その意義や価値を理解しているか。</li> <li>自己の能力・適性について理解し、その向上に向けて努力できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア学習を実社会や自己の在り方と関連づけることから、各自の課題を見つけ、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア学習に関して、主体的・協働的に取り組むとともに、他者と協調しながら、よりよい社会を実現しようとする態度を持つことができたか。</li> </ul>
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>課題等の記述内容</li> <li>確認テスト等の点数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>課題等の記述内容</li> <li>確認テスト等の点数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察</li> <li>ワークシート等の記述内容</li> <li>課題等の提出状況</li> <li>振り返りシートの記述内容</li> </ul>
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	6	進路希望調査	2年修了時に定めた目標の到達度を踏まえ、修正・再確認。適性検査の内容と目的を知る。カワセミの目(メタ認知能力)の育成。個々の能力や進路希望に合わせた学習のサポート。	○	○	○
		PF「年間目標」 SG式精神作業検査【関口心理、¥700】 手帳・PFの指導(通年) 進学者さくら組(通年) 進学相談会【エド】				
5	8	進路別ガイダンス	適性検査の結果分析。自己認識と向上の機会とする。道東の企業・業種の説明を聞く。志望先をイメージ。総合型選抜の書類を作成。受験内容の確認。公務員試験申込 公務員試験の受験案内を確認し、申し込む。	○	○	○
		合同企業説明会【YMO21】 進学者願書取り寄せ 公務員試験申込 進路目標決定 PF「中間考査に向けて」				

6	8	進路別ガイダンス 合同企業説明会【同友会】 お仕事フェア【ジョブカフェ】 PF「学校祭に向けて」	進路希望別準備活動。今後の概観。 志望先をある程度絞る。 志望先をある程度絞る。 学校祭に向けた目標設定	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
7	6	PF「学校祭を終えて」 PF「夏休みの目標」 進学者夏期講習 就職者夏季講習	集大成となるものを作り上げたか、自身を成長させたか。 夏休みに向けた目標設定。 さくら組での学力向上。 合同企業説明会、必勝セミナー等【厚労省】【ジョブカフェ】 応募前見学。企業研究。履歴書下書き。	○ ○	○ ○	○ ○
8	4	PF「今後に向けて」 PF「期末考査に向けて」 進路別ガイダンス 就職者志望先決定 進学者応募書類作成	夏休みの目標は達成できたか。 期末考査に向けた目標設定 進路希望別準備指導。今後の概観。 履歴書清書。企業研究 自己推薦書の作成。進学の手続き。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
9	8	PF「期末考査を終えて」 進路別ガイダンス PF「前期を終えて」	目標は達成できたか。 進路希望別活動。ここまでの反省。今後の目標設定 進級時に定めた目標の到達度は？目標の修正は？		○ ○ ○	○ ○ ○
10	8	進路別ガイダンス 租税教室	進路希望別活動。ここまでの反省。今後の目標設定。	○ ○	○ ○	
11	8	PF「中間考査に向けて」 SDGs COMs に向けて	中間考査に向けた目標設定。 発表準備。		○ ○	○ ○
12	8	SDGs COMs に向けて PF「中間考査を終えて」 進学者冬期講習	発表準備。 目標は達成できたか。 大学入学共通テストに向けて学力強化。	○	○ ○	○ ○
1	5	PF「冬休みを終えて」 進学者講習 PF「3年間を振り返って」	1年間の学びのまとめ（目標への到達度等） 一般選抜に向けた受験対策。 高校3年間を振り返り、次のステージの目標を立てる。	○	○ ○	○ ○
2	1	進学者講習 就職者研修【ジョブカフェ】	一般選抜に向けた受験対策。 内定者研修	○		
3	1	卒業生講話	後輩達に伝えたいこと（受験までの道程等）。		○	○